

卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

岩手医科大医学部

2次合格

苦手な生物は、緒方先生と金谷先生でした。
高校の教科書を読んでもわかんないけど、
先生の言葉だとすんなり入ってくる。

岩手医科大医学部進学 大根 麻梨奈さん(聖心女子学院高校)

Basic のテキストで最後まで基礎を大切にしました

私のはあんまり参考になんないと思うんですけど、1年間通して基本的に応用には手を出さないっていうか、ずーっと基礎だけを同じ問題ばかりやってましたね、どの科目も。最初のクラス分けテストでStandardのテキストのクラスに入れてもらったんですけど、すぐにギブアップして。石井先生に相談してBasicのテキストに変えてもらいました。

私は生物と数学が苦手だったんですね。生物は緒方先生と金谷先生に教えてもらってほんとに生物苦手だったんだけど、ある程度…っていったら先生に失礼だけど、ある程度受験で戦えるくらいにはなりました。

緒方先生はなんかすごい生物の流れっていうのは難しい内容が生物Ⅱの内容だと多いんですけど、すごい簡略化してわかりやすく説明してくれるので私でも理解できるっていう感じで。テキストや高校の教科書を読んでもわかんないけど先生の言葉だとすんなり入ってくるので。よかったです。金谷先生も、あ、緒方先生は結構詳しいとこまで教えてくれる感じで、金谷先生は必要で絶対、ここだけはおぼえなきゃみたいなを目にもインプットされる板書だし、言葉でも幼稚園生でも理解できる例えをしてくれるみたい。2人とも似てるなって。2人ともとにかくわかりやすい。及川先生は集団でしか習ってないけど、印象的だった。私は数学すごい苦手だったから、最初は厳しい先生なので、ひたすら怖いなと思わなかったけど、「春のさきどり」の時に教わって、あ、この人だったらできるようになるかもって思いました。ほんとにコンパクトにすごいまとめてくれるから、ここだけ覚えればいけるのかなみたいな。メッセージもすごいグツとくるもの言ってくれるし、いいなあと思いました。

石井先生もやっぱり他の先生とは全然違うっていうか。すごいあんな短い文章、10行くらいの文章なのにこんなに知識詰まってるんだっていうのはいつも感じましたね。あんな短いのにここも、ここも、ここも、みたいな。まあ石井先生の授業は、扱う授業の問題を1問1答に纏めて、ただ白い紙を並べてるだけなんですけど、空所をあけてあとでもう一回読み直して、みたいなことをやってたら、授業の内容の深みにハマるっていうか(笑) そんな感じで復習してた。ノートじゃないんですけど、直前にやった石井先生の長文のやつをコピーだけを受験会場にも持って行って、何度も読んでるんですから読むから、直前はそれだけ見てた。こんな埋まってるぞ見たいな。

自分では生物とかは絶対覚えなきゃいけない植物とかあるんですけど、ただただ覚えても受験本番には忘れるから、歌作って覚えた。生物は結構歌作って覚えた。単純暗記系のものは。(植物は)覚えにくいですね、その割にでるっていう。(歌は)ほんとに幼稚園生みたいな。アルプス一万尺とか、それで適当に。覚えなきゃいけない単語とかはめ込んで、帰ったらお風呂入る前とかに洗面所にホワイトボードとかに貼っついて、そこに

書いてあるんでそれを毎日歌うっていう。地味な工夫だけど、私はそれで意外と覚えられました。

私は高校の時全然勉強しなかったんで、範囲を全部終わらせようとはおもってました。夏中に一回は終わらせたいなあって。とりあえず、夏期になると応用問題も授業で入ってきてはいたけど、そっちよりもずっと1学期のBasicテキストの復習やってた。なんか、そうやって全部さらうじゃなくて、できないものを何十回印つけて、この問題はってできるまではってやってましたね。数学は特にできないので、1学期のテキストやってた。しかもそれ冬までやってた。(1学期のテキスト) 大事ですね、ベーシックだけどほんといテキストだったなと思って。

Monthly Test は最初すごく嫌でした

マンスリーテストは私の学校は全然進学校とかじゃないので、自分の成績を人に見られたりだとか、順位が出たりっていうこと自体が初めてだったから、最初はものすごく嫌で心の負担でしかなかったんですけど、でも、逆にいえばその自分の結果が周りと比べてどうかってわからないからこそ自己嫌悪になってたし落ち込んでたから、逆に1科目でも、英語とか載ることができたから、自信につながったりとかして、前回ここだったから。そのマンスリーの使い方って、他のだれだれさんと競うみたいなのもいると思うけど、私はそれがすごい苦手だったから、前回の自分の順位、前月の自分と戦おうみたいなそういう競い方をして。でもそれでもマンスリーはほんとに点数がなかなかとれなかったから、最後まで不安でしかなかったんですけど、逆にマンスリーが難しかったからこそ本番が、マンスリーよりはできたと思えることがあったからよかったのかなと。

私はマンスリーのレベルには達してないなって分かってたので、せめてウィークリーはがんばろうと。だから特に前期はすごくいい点数取れてた。1位を取ったこともあります。ウィークリーがあるから日曜日を無駄にせず勉強できた。でも後半の方は復習が全然追いつけなくなってって、後期のテキストの勉強よりも1学期をやりたくなっちゃってたから、その頃のウィークリーをおろそかにしてたのはよくなかったなって思ってます。

朝は七時半に行くように心がけていた

私は確かに時間でしか勝てないってとこあったんで、効率はピカイチ悪いんで…6月からは毎日7時半に行ってた。開くまでは下で待ってて、開いてからは朝の1限までは自習して、でもなんか自習してると、その時間がほんとに有効だったかはわからないけど、それでも人よりちょっと早く来たみたいな優越感で安心して勉強できたし、今日は行っただけ明日は行かないとかじゃなくてほんとに毎日続けるみたいな。最初は2週間続けたら焼肉食べに行つていいみたいにご褒美をつけてたんですね。でも、そのまま2週間続けたらほん

とに受験当日まで毎日行けたので、その時間、その代り帰ったら勉強しなかった。帰ったらすぐ寝て昼も、昼とか休憩時間、休憩時間はほんとに寝てて、昼ごはんはごはんくらいしか楽しみないから、そこは友達と食べて、そこは休んでました。

浪人生になって一番不安だったのは、まあM（選抜クラス）の人が受かるっていうのはわかってたんですよ。でも、私みたいにすごく成績が悪くて、入って、そういう人が受かったのかってずっと知りたくて。合格体験記とか読んでも、結局この人頭いいじゃんって、いつも思ってたんですよ。でも私はほんとにできなかったから、それはたぶんどの先生に聞いても、最初の春の段階で絶対どこにも受かるはずないって人だったから、そういう人でもたった1校でも、やっぱ受かるのと受からないのって違うから、私みたいな人でもがんばれば、たとえ1校でも受かるんだって。だれかそういう人がいてほしかった。で、そういう人になりました。



後輩へのアドバイス

私がやっててよかったなって思ったのは、計画表を立てて1週間分の紙に書いて時間割みたいなの作って、でもそんなきち考えすぎずにやりたいこと書き出してやったら蛍光ペンでひいてみたいなのを、私結構好きで高1くらいの時からやってて、結局何十枚も溜まったのを、試験とか不安な日に見て、これだけやったら大丈夫みたいな安心材料にもなったから、計画表を作

るのもオススメかなと思う。

岩手楽しい。良いところです。ぜひ受けてほしい。先輩もほんとに優しいです。関東出身だから関東を基本に置いて受験校も決めて、たまたま地方受けたけど、岩手の大学はほんとに入学するまで知らなかったから、入学式で初めて行って、あ、私ここが第一志望だって思った。きれいだし広いし、外見もそうだし中身も人が優しいし。電車がちょっとないけど（笑）。ほんとにいいですよ。楽しい、充実してます。地方だから遊ぶ場所も限られてるけど、東京での遊びを知らないからこそ地方での遊びをみんな知ってるから、自然系。楽しめるんですよ。ぜひ受けるだけでも受けてほしい。

卒業生が語る

合格への軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部

2次正規合格

北里大医学部

2次合格

2次の面接はちゃんと
やっててよかった、
って本当に思う。

日本大医学部進学 橋本佳穂さん(田園調布学園高校)

最終的に苦手科目が得点源に

栗原先生のマンツーマンと化学の授業は好きでした。化学は高3の11月の時点で無機とかまったくやってなくて、有機もやってなくてあと数か月しかなくて。それで、何月までに無機のノートを作る、何月までに有機のセミナーを終わらせる、みたいな計画を立ててくれて、セミナーも問題多いから全部はやってられないから、問題選んでもらってやってたら、要領よく無機も有機もできて、そこから化学が得意になった。みんなは高2の2月3月に有機無機をやってて、終わってから入塾したので、私はとにかく入るのが遅かったんで。栗原先生は長文とか読み方が全然違って、なんかたとえば the が出てきて、the の種類がたくさんあってどれか考えたり、いちいち this とか出てきたらつなげてったりして、そうしたら私長文すごい嫌いだったんですけど、読みやすくなって、あたると調子乗って気分もいいから。読み方を教えてもらった。最終的に文法より長文の方が得点源になってた。

予習は「考えられない人」にこそ大事

私、数学なんですけど、薄先生にめっちゃ予習やれって言われてて。私、考えるのがダメな子だったから。実際、復習の方が楽でよかったから。最初ハイレベル数学で、本当に分からないから、どうしようって感じだったんですけど、薄先生に予習本当に大事だからって言われて、予習にすごい時間をかけるようになってから、なんか結構考えられるようになって、時間はすごいかかっちゃうんですけど、テストとか入試でも分からないのがあったら、とばして、とばしてって現役の時はやってたんですけど、考えたら結構いけるから、考える習慣がついたのがよかったと思うから、復習もすごい大事だと思うけど、予習もすごい考えられない人には大事だと思う。

テキスト以外にはやったことはないです。セミナーだけやってました。節田先生に選んでもらったところだけセミナーをやりました。あとは、英語はファイナルをやりました。(大学受験スーパーゼミ 全解説 実力判定英文法ファイナル問題集) ファイナルは荒巻くん(愛知医科大学医学部進学) がやっていて、「めっちゃいいよ」ってお勧めしてくれて、それに便乗して、栗原先生に聞きに行って「いいよー」って言うてくれたので。でも、これは直前にやるものだと思います。石井先生の授業は意識がメツチャ高くなる。先生の話を聞くとすごく焦って、やる気がでてきました。先生の授業は予習の段階でかなり緊張するんで。当てられたらヤバいって。

私、試験前お兄ちゃんに、「英語は、いきなり長文読むとあれだから、ちょっと、休み時間に文読んどくといいよ」って言われて。現役の時も一浪の時も、石井先生のγを予習したやつをもって行って、試験前に読んでました。その流れで長文みたいな。それがよかったです。

頭が英語になる。読んでからいくとやりやすかった。あとは、会場ではなめられたくなかったので、それにも使っていました。

勉強するなら朝が良い

私は朝、ゆとりだったんで(笑) 父親が車でおくってくれるんですよ。だから、絶対に早くつくから、朝早く、遅くても7時45分頃について。眠いから、下の自販機でWONDA モーニングショットを買い、そうすると絶対目が覚めるから。それで朝勉強して、ウィークリーの日は無理なんですけど、2限空いている日は2限にお昼を食べて、お昼に休みたい時は、長岡さんのところとかに行っちゃうんですけど、大丈夫な時は、お昼も勉強して、で、午後授業受けて。家に帰ったら、ほとんどやってないです。たまに気持ちがあるときはちょっとやって。

でも、ほとんど出来なかったですね。なので、寝て、朝みたいな。勉強するなら朝がいいです。人の少ない自習室の良さ。優越感。王(岩手医科大医学部進学)くんが斜め後ろにいたから。隣の荒巻くんは絶対こないから(笑)

でも朝ウトウトして、ちらっとみて王くんが来てたりして「あ、まずいきちゃった！」ってなっていました。

2次の重ねすぎは絶対危険！

基本的には自分の受験したいところを入れて、2次優先で考えて受験計画をたてました。浪人生だったので、地方もいれて。ただ、岩手の2次と昭和の1次は昭和を優先させましたね。おとうさんが、岩手いつちゃったら…って(笑) アドバイスもらいながら、考えて決めました。あとは、石井先生との3者面談で決定してもらいました。女子医の2次と聖マの2次が重なったときは、石井先生に相談しました。北里の補欠が繰り上がりそうという情報は持っていたし、石井先生から女子医の方がよいとおっしゃっていたのですが、家に帰ったら両親とまた迷ってしまっ。安全パイだと思って聖マを受験しました。筆記も自信があって、面接も自分的には自信があったので、もしかして正規合格かも！と思っていたのに、補欠の番号も悪くて。振るわなくて、女子医を受験した方が良かったなと思ってます。英語に自信がなくて女子医をやめたんですが昨年の英語はとっても難しかったみたいで。石井先生のアドバイスはしっかり聞いたほうが絶対いいです。あと、2次の重ねすぎは絶対に危険なのでやめたほうがいいです。

MT はルンルン！？

私はMT はあまり復習できてなかったですね。できたら、ルンルンで先生に報告して。ランキングが先生たちの机のところにあって、どうどう？って一緒にみて、報告してほめてもらったりして。でも化学とか生物とかは解けない範囲がどこかわかるようになるので、そこは復習するようにしていました。

面接対策は大事！！

私、すごい言いたいことがあるんですけど。面接対策なんですけど、慈恵の前とか石井先生に面接対策メツチャやってもらって、でなんか、話し方が子どもっぽいと指摘してもらって。それで日大の面接とかも合格できたんだとおもいます。北里も面接でかなり順位下げられてたみたいなので、すごい2次対策はしっかり出たほうがいいと思います。

兄も代官山 MEDICAL から日大医学部へ進学

軟式テニス部に入りました。試験前は普通に休めるし、テニスもできるし。お兄ちゃん(日本大学医学部3年橋本直起君)にはお兄ちゃんも入ってる陸上部を「ゆるくて試験前休めるから」って勧められけど、陸上に興味がないから、軟式テニスにしました。兄弟がいると教えてもらえるのでいいですけど、おとといくらいに図書館で友達と勉強してたらお兄ちゃん入ってきて、すれ違いざまに” おとすなよ” って。いやいや、友達いるからそういうのやめてよって(笑) 本当に性格が悪い(笑)



卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部	2次正規合格
大阪医科大	2次正規合格
杏林大医学部	2次合格

石井先生が一番信頼できるなと思った
ことは、過去の卒業生の話をすると
目が輝いてるってところ

日本大医学部進学 井上 卓君(東邦大付属東邦高校)

友達から聞いた「代官山 MEDICAL は理系の先生がすごくいい」。入って見たらその通りだった

一番の理由は大河（一昨年度代官山 MEDICAL 卒業生 東京慈恵会医科大学進学 鈴木大河くん）ですね。理系の先生がすごくいいと聞いていて。数学科、化学科。入って授業を受けてからは、実際その通りだったなと思いましたね。その時は「物理の先生がいいんだよ！」って力説されたけど、「生物選択なんだよな〜」って思っ
て。「生物は？」って聞いたら「他の生徒にきいたら、評判いいよ」って。このやりとりがあったのと、実際1浪が終わって、2浪目ってなって考えました。俺も大河も中学から知り合いだったわけで、いざ二人とも浪人するってなった時に、俺は現役の時から大手の予備校に行っていて、このままでいいかなってかんじで。母親も父親も、まあ好きにすればって感じだったんですよ。大河の家は、大河がどうこうっていうのもあったんですけど、お母さんがいろいろ行ってみたり、すごくやっていて、俺んちとのコントラストがはっきりしていたんですよ。それで、1年終わってみて、蓋を開けてみたら「あれ？う〜ん…受からなかった…」みたいな。それで、俺以上に、父親と母親が考えたみたいで。それで一番身近にいて、医系予備校にいたのが大河だったので、話をきいて、行ってみようかとなりました。それで説明会で石井先生の話をきいて、決めました。

他の医系予備校にも二つほど行きました。その1つは東京校が今年からできて、近所だったんですね。交通の便がよかったんで見てみたんですけど、「現役生しかうかってないな」って感じがすごいあって。もう一つの方は、俺にあっていないと思ったことと、大河がいたので代官山 MEDICAL に決めました。まあどちらに
いっても、やるのは自分なので。

初日の数学の授業からインパクトが超強くて。「ここまでやってるんだ」と思って、とにかく印象的でした

入塾したのが1学期の始まるすぐギリギリで沢山課題をもらったので、英語と生物はとりあえずパーっと終わらせて、気が付いたらもう始まるみたいな感じでした。初日の3限の及川先生の授業（数学）がインパクト超強くて、「ああ、これがこの予備校か」と思ったんですよ。どこがどうって言われると、「生徒を当てるのはすごいな」と思ったし、あとは、問題を作らせたんですよ。生徒に。それがもうとにかくインパクト強くて、「ここまでやってるんだ」と思って、とにかく印象的でした。大手の予備校だと、たまーにそういう先生もいますがまれなので。あと、入塾が開講ギリギリだったこともあって「知らない名前が1つだけあるな〜」って先生がなって。「俺じゃん」って思って。多分他の生徒はさきどりとかがやってて、俺だけかって思って。そこでびびりました。みんなさきどり来てたかーってなって。そこでかなりビクビクしてた。びびりなんで。蓋をあければみんないいやつだったんです

けど、それは後々ちよつと引きずるものがありました（笑）

石井先生が一番信頼できるなと思ったことは、過去の卒業生の話をすると目が輝いてるってところ

先生方は質問しやすいし、本当に分かりやすかった。なんでも聞けたし、割と「これやってみな」っていうのもよかった。

英語はやっぱり石井先生の授業ですね。本当に討論形式もおもしろかったし、留学の話をしてくれたのは、面白かった。先生が留学をして、トドみたいなホームステイ先であいつらだらけてる、みたいな話で、そういう話を今までしてくれる人がいなかったの、よかったです。あと教材でラッセル読んだのも良かったです。ちよつとだけ時代に合わないなっていう題材もあったけど、人生の享受の仕方とかいろいろ学べました。石井先生の授業は医学部のこととかも沢山話してくれて、石井先生の授業では目標を感じられました。医学部内部のこととか、リアルに感じられたし、東北の医学部新設の話とかも面白かった。あとは石井先生が一番信頼できるなと思ったことは、過去の卒業生の話をすると、目が輝いてるんです。それは印象的です。生徒が合格してくれるのが一番うれしいっていうのが分かった。卒業生が石井先生と話しているのを見かけて、楽しそうだなって思ってた。

英語はあと、栗原先生。栗原先生の授業は背景からやって、小手先だけのやり方じゃなくて、英語の歴史的背景とかも教えてもらえてよかった。あと、背景とい
つつ、英語からとってきたような実用英語も教えてくれるから。

あとは押田先生の英作文もすーごいよかった。前期はとにかく書かせてくれて、他の人が書いたのを自己添削してくれたり。あとは繰り返しやってくれた。「これは、先々週の授業のものだけどできるかな？」みたいな感じで日本語でバツと問題を言っ
て、俺らが解くみたいなかんじで。すーごい力になった。授業で反復できて。俺はマンツーマンは取って
いなかったけど、そういうのは授業じゃなくちゃできなかったから、助かった。

英語だと他には、紙辞書の引き方を教えてもらったのがよかった。本当に役に立ってる。今第二外国語でドイツ語を選んで、ドイツ語も紙辞書にしちゃったから（笑）。紙辞書だと、前後の単語も見えるのが大きな違い。電子辞書だとカテゴリーごとになってるからカーソル動かさないとだめだから。「す
ごいよかったな〜」って思ってる。あと、紙辞書は勉強してる感というか、や
ってる感がすごいあって視覚化しやすかったからいいかな。やっていると空気含んで辞書がひろがって、箱に入らなくなるのがす
ごい嬉しい。

大森先生の授業は入試レベルじゃないよっていうレベルで、医系に特化していた

生物は、実はあまり勉強してません。1浪の時にすごい生物ばっかりやっていたので。夜間学習では、生物は調べ学習の時も調べずに終わったこともあった。でも問題を解くときは、時間が余った生徒には記述対策とかやってもらえて、「ここはダメだよ」と厳しく見てもらえたのがよかった。多分大阪医科の勝因はこれだと思う。

そんな生物だけど、大森先生の授業とかは医系に特化していて知らない知識とかがあった。大森先生の授業は入試レベルじゃないよっていうレベルで、新しすぎますよってレベルの人なので。問題作る側の意図とかもわかった。あとは、大森先生で衝撃的だったのは「君たちこれくらいは覚えておきなさいよ」ってこと。細胞の大きさであれ、「インスリンのタンパク質は51個からなる」とかであれ。普通はそんな知識なくて、実際日大に入っている人は日大だからかもしれないけれど、覚えてる人はいないので。ここまで覚えさせるのかと思う反面、すごいアドバンテージになったなと思う。今でも覚えてるし、覚えてよかったと思ってる。これで生物は解くのがすごく速くなった。「私立医学部なら全部背景知識じゃん」って済んだり。慈恵（東京慈恵会医科大学）でも大丈夫でした。

今大学で「マニアックというか発展的な先生がいて～」って話になるくらい、化学の授業は難しかったけど、今その知識は生きている

化学は節田先生が、すごいわかりやすい。面白いし。結構ディベート形式で進んでいくのが本当に楽しかった。生徒同士もあるし、先生とも。例えば「山の山頂の方だとお米がおいしく炊けないけれど、なんで？」っていうのを誠雄（日本医科大学進学 寺門誠雄くん）と突き詰めたのは面白かった。興味から成績につながるのを感じました。他にも化学は有機が小林先生だったんですけど、小林先生の授業は本当に難しかった。難しかったけど、なぜか今、生きてる。「こんな反応、入試じゃ出ないでしょー」って反応、フリーデル・クラフツ反応とかヘキスト・ワッカー法とか。本当になぜか今生きてるから。今日も大学の有機の授業で、フリーデル・クラフツ反応やって、「まじでか！」ってなって。「あれだよなー」って言っても他の奴だれも分からないから。「マニアックというか発展的な先生がいて～」って話になって。小林先生の授業は大学の授業みたいだった。

松永先生は、意外と目の前で実験とかしてくれたので、楽しかった。お手製のとか。あとは、純粹に分かりやすかった。プリントとかも要点まとまってるし。先生たちみんなそうだったけど、松永先生もわかりやすかった。本当に先生に恵まれてた。

あと化学だと、小椋先生の過去問もよかった。国公立からも問題を持ってきてくれたし、最近の傾向も知ることができた。単純に小椋先生の授業を受けてると、解くのが速くなるんですよ。本当にパンパンっというようになる。本当に要点とか「最低限これは」ってい

うのがまとまってて、で、分かんない問題とか解いていって。必要だったら知識を入れてくみたいな。小椋先生はよっぽど生徒の相性が合わない、っていうのじゃない限り、誰にでも合う先生だともう。俺とかはすごく相性が合った。夏と冬と夜間でお世話になったけど、本当によかった。

数学の授業は本当に全部好きだった。一番を選べと言われたら全部選ぶとしか言えない

数学が楽し過ぎた。ここに来たときに1浪終わった時点で、「俺は数学で落ちたな」と思ったから、ひたすら数学を中心に。本当に平野先生とか夜間学習でもプリントたくさんくれて、アホみたいに問題といたし。解ければ楽しくなった。数学の授業は本当に全部好きだった。一番なんて選べない。本当に好きで、だからその授業の予習復習もしっかりしたし、一番を選べと言われたら全部選ぶとしか言えない。及川先生、啓寿先生、高橋先生、薄先生、長澤先生、平野先生には本当にお世話になりました。

1浪の時は、多少とは言えない苦手意識があって。正確じゃないけれど、Monthly Testで極座標の問題が25点中3点とかだったもん（笑）。極座標だからかもしれないけど、「おー…こんなにできてないか…」みたいな。微分積分も微分はできるけど積分は苦手みたいな（笑）。医学部って数ⅢCできないと相手にならないから。大学はいつてからも、すごい使ってるんですよ。なぜか物理ですごい使うから。外積とか、オイラーの公式とか。それは啓寿先生がこういうのがあるって教えてくれて、自分で調べたっていうのもあるけど。数学雑学みたいなのをモキモキ先生（長澤先生）が教えてくれたので、それを自分で調べたりした。あとは、数学の平野先生の本当に全てを網羅したプリントはすごかった。あと後期は実際の入試問題を原寸でやってくれたので、「おー！すごい」ってなった。他にも啓寿先生の授業は、脱線しているような、してないような。とりあえず受験の範囲からは外れているけど、突き詰めれば上から受験問題みれるみたいな。それは一番上のクラスだったんでよかったです。

前期は復習中心、後期は予習中心。合格座談会で合格した先輩の話を聞いて真似してた

朝はなかなか早く来れなかったです。それが敗因ですかね（笑）。授業の合間は予習が多かったですね。22時半頃に帰って。そこから食事して、風呂入って、勉強系の動画とか見てました。YouTubeに『東大数学を解く！』みたいな暇だなーって思うような動画を東大生がアップしていて、そこから知識とかゲットしてたから、「あれ？こんな時間？」みたいなかんじになってました。

そんなかんじで後悔があるのは自己管理くらい。あとは、少しだけ数学に闇雲になりすぎてたっただけのが、あったかなと思います。誰も知らない理論とか、入試にでない理論とか、大学でもやらないようなのやったり。

数学が楽しすぎた。基本的に歴史から入ってたから。でも楽しかったから、頭に残った。好きな人しかおすすめしないけど。あと、余裕があれば、その時間を英語とかにもうちよっと割いてもよかったかなって思う。10月頃から徐々に初めたけど、もうちよっとだけ過去問は早く解き始めてもよかったかなって思う。勉強法としては、夏に特にやっていたんですけど、「やること」「やったこと」をリストアップしてた。具体的には夏の個別の時間割に「この時間何やったぞ」っていうのを書いてた。数学の復習だったら、問題番号まで。具体的に書いてた。あとは、テキストの目次のページをコピーして、復習をやったら、サインペンで斜線を引いてた。そうするとやったことと、やってないことが視覚化されたから。でも、実は自習のときちよっと寝てたかな。例えば、夏にやってたっていう時間割、全部埋まってたんですよ。でも実はやじるしがあって、「この時間までやりました」ってものなんですけど、やじるしがぶれてたらさぼってたって印なんですよ。あとで自分で分かるように（笑）。最後の方は、人通りのあるG教室とかを借りて勉強して、ここだったら寝ないだろうってやってました。前期は特に復習中心にやってた。後期は数学はほぼ予習しかしてなかった。あとは好きな問題を突き詰めてた（笑）。背景探ったり。前期は復習中心、後期は予習中心は去年の合格座談会で合格した先輩の話を聞いて真似してた（笑）。

ハイレベル数学のWeekly Testは難しい問題が多かったんですけど、逆に「勝ってやろう」って意気込んで、燃えてました

Monthly Testは、「まずいな」と思った問題をその日のうちに復習するようにしていました。夏終わるくらいまでは、「Monthly Testできなかった…」って追われてるかんじになってたけど、後期は逆にいい時しか気にしなかった。悪い時は目をそらして、「いや、次でしょ」ってしてました。それで試験耐性がついたかも。前半は落ち込んだこともあるけど、後半は悪いときもそんなに落ち込まないようにしていました。Semi-Monthly Testはやっぱ数学。数学のことしか話せないですね（笑）。やっぱ燃えましたね。M1のクラスは数学が得意なやつが多かったのもあって。Weekly Testはあまり気にしてなかったです（笑）。いや、数学に燃えてました。数学はいい問題を作ってもらえていたので。ハイレベルのWeekly Testは難しい問題が多かったんですけど、逆に「勝ってやろう」って意気込んで。時には「ちよっと無理でしょ…」ってなったりしてました。生物はWeekly Testで穴がなくなりましたね。あと、毎週目標を持てたのがよかった。何かしらの科目で23点以上とれるようにしようってしてました。23点以上とろうっていうか、採点者の人がWeekly Testに「すごいね！」とかコメントをくれるんですが、それがちよっと欲しくて（笑）。「ちよっとこれ嬉しいな」って初めて取った時に思ったんです。25点の時とか「すばらしい！」って書いてくれたり

して、地味に嬉しいんですね。手書き感があって。

直接じゃなくても、代官山MEDICALに登校すれば、他の人の背中を見てやんなきゃなって思えた。本当に

皆をひっぱりつつ、誠雄や角田（昭和大学医学部進学 角田尊くん）にはインスパイアされてました。結構持ち味が違ったので。角田はなんだかんだ点の取り方をしていたし。誠雄は俺の発想ではない、疑問とかを持ってたからすごいなと思ったし。俺の持ち味は記憶力かな。それは誇れるかわからないけど、誰も知らない公式を知っていたり。これはいいことじゃないけど、それのおかげで問題を一瞬で見ただけで答えが「ああ。これはこの公式…っていうか、流れじゃん？」ってわかったから、いきなり「この答え大体こんな感じだよな」ってなって、実際合ってた。それは興味をもって勉強した結果です。すごいこれは大事だと思います。7月頃かな。能動的でもあったし、ある意味受動的でもあるんですけど、大河の代官山通信を読んで、「昔から勉強に興味をもってやってたな」っていうのを見て見習った部分もあった。あいつも多分こんな感じだっただろうって。友達とはアドレスは全く交換しなかったです。毎日会ってたので、必要もなかった。よっぽど連絡しなきゃいけないって用もなかったし。必要がなかったし。とにかく代官山MEDICALに来ればみんなに会えたし。みんな毎日来てたし。みんなと同じように、俺も1人ではできなかったと思う。直接じゃなくても、代官山MEDICALに登校すれば、他の人の背中を見てやんなきゃなって思えた。本当に。

石井先生の2次対策の授業やアドバイスの通りに、医学部の面接や受験校決めをした

医学部の面接って答えがない質問って言われる質問をぶつけられるけど、答えが沢山あって生徒が見つけれないだけなんです。石井先生の2次対策の授業は、その答えを生徒に何か1つ見つけさせる2次対策かなと思う。最初はガチガチに緊張したけど、日大とか大阪医科とかは気楽に受けられた。

受験校は、俺が決めたのは本当に受けたいところ。俺の場合は結局受験しなかったところは、慶応と（笑）慈恵、日医あとは東医ぐらいで。それ以外は石井先生のアドバイス通りに。とにかく安全志向だったから、東邦と杏林どっちも出願しとうか、っていうのとかは自分では絶対分からなかったし、決められなかったから。現に、去年はまったくそんな考えなかったし。去年は自分も知識がなかったし。大手じゃ厳しいと思う。実力があるやつはそれでいいかもしれないけど、俺なんかは生半可だったから。

直前期は過去問以外は、テキストをやり直して穴を埋めてました。本当にいいテキストで、売れると思います

友達と過去問解くのはすごい楽しかった。角田にしろ、

誠雄にしる。その方が本番意識持てたし。それは本当に直前期だったけど。無駄に国公立やってみたり。でも、全然無駄じゃなかった。大阪医科（大阪医科大学）はほんとまんま国公立だった。難しかった、実際。化学が特に。だから「やつといて本当によかったな」と思った。本番は私立じゃなくて国立から出た。愛知医科（愛知医科大学）も国公立よりというか、記述だから、数学が特に。西の医学部は原理に沿っているの、本質やってれば西の医学部の方が…とかいうと負け惜しみみたいになるのでやめます（笑）。日大（日本大学医学部）は過去問解いてないです。

直前期は過去問以外は、テキストをやり直して穴を埋めてました。特に数学は直前まで1学期のテキストをやり直してました。1学期が本当にいいテキストだった。本当に売れると思います。本当に、本当に何度もやりました。化学はテキストと節田先生の『医学部の化学』。あとは過去問。あとは好きな学校の問題やりましたね。愛知医科は数学と化学は特に面白い問題が多かったの、好きでした。



本当に「だめだろ」って思いつつ受けてたところもあったけど、諦めなかったのがよかったかなって思う

あとは、直前期という受験期は諦めなかったかな。日大にしる大阪医科にしる。大阪医科なんてひどくて。大阪医科は英語が一番最後なんです。理科、数学を午前中に終わらせて。実は日医（日本あとは、直前期という受験期は諦めなかったかな。日大にしる大阪医科にしる。大阪医科なんてひどくて。大阪医科は英語が一番最後なんです。理科、数学を午前中に終わらせて。実は日医（日本医科大学）が第一志望だったこともあって、昼に日医の結果をみちゃって。「だめだな」って思いつつも、手ごたえがあったから「なんと

かなってる」と思って見て。「えっ…落ちた…」でなつて。半泣きになりながら英語解いて。よく、大阪医科正規で通ったなって思っ。ほんと、数学でずば抜かれてたと思う。去年は数学でだめだったけど、今年本当に数学がディスアドバンテージになってないのが嬉しかった。日医も大きい声じゃいえないけど、敗因は英語だから（笑）。完全にこれは教え方どうこうじゃなくて、自分が焦ってた。1教科目英語ですごい時間配分が難しかった。まあ、今となつては「それはそれかな」って思えるけど。でもいや、あれは見ちゃダメでした。いや、危なかった。

あと、愛知医科か岩手医科で熱をもらってきていました。杏林（杏林大学医学部）あたりで、「あれ？ 具合悪いな」って思っ親を呼んで点滴を打ってもらってっかんじ。今だから言えるけど、獨協（獨協医科大学）の前日に熱が38度とか39度とか出て。で、親は「受ける？ やめておく？」みたいな感じで。でも、獨協が終わるまでどこも結果でなかったから、どこも受かってない可能性あると思っ。実は愛知医科は3教科終わった段階で合格最低点を突破している自信があつて。数学はフル解できてたし。でも、最後の1教科でなんかやらかしてる可能性もあるし。今年は2浪で、冒険できないってこともあるし。だから、一応受けに行っただけど、本当に具合悪くて（笑）。北里（北里大学医学部）から本当に「だめだろ」って思いつつ受けてたし。あれはしょうがないところもあるけど。愛知医科は結果特待で、岩手医科、杏林も1次きて、北里も「あれで受かってるの？」って思っただけど1次合格できて。多分何かがよかったんだとおもう。びっくりしたよ。あの時期の風邪は心にひびく。本当に焦ってた。結果論だから愛知医科が受かってたって言えるけど。だから、諦めなかったのがよかったかなって思う。特に大阪医科と日大は。大阪出身のやつに、密に大阪医科うかつたことボソッと言って、「おおっ！ すごい！」と言われるのが、ひそかな趣味の悪い楽しみです（笑）日大でも代官山 MEDICAL の生徒がいて、知っている人がいるので安心します。

卒業生が語る

合格への軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

東京医科大

2次合格

距離感が近くて、
相談できる先生がいるという
ことが勝因だった。

東京医科大進学 神谷 知紀君(麻布高校)

代官山 MEDICAL の先生方は普通の予備校の先生と距離感が全然違う。相談できる先生がいるということが絶対に一番大事。

一年間代官山 MEDICAL でやってみて、俺的にはきつかったっすね。確実に人生で一番勉強した一年だったと思います。一回目の受験の時は普通の予備校に通ってたんですけど、授業にあまり出ないで遊んじやって、全然やらなかったっすね。同じ高校の友達もいっぱいいて遊んじやいました。代官山 MEDICAL に来て、代官山 MEDICAL の先生方は普通の予備校の先生と距離感が全然違うって思いましたね。普通の予備校では 1 クラス 100 人超えとか余裕であって、マイクを使っていたし、人気講師になるとすぐに次の授業に行っちゃうので、10 ～ 15 分の間に長蛇の列の質問をこなさなきゃいけないから、「はい、次」みたいに適当に対応されましたし。その点、代官山 MEDICAL の先生方は、よく目が届いてますし、一人一人の性格とか得意不得意をよく把握してると思いました。あと、6 階に先生がいっぱいいるじゃないですか。だから、すぐに質問しやすいですよ。すぐ帰っちゃう先生方じゃないし。相談できる先生がいるということが絶対に一番大事だと思います。マンツーマン取るにしても取らないにしても、誰か相談できる先生が一人いるとその流れから課題もらったりとかしてたんで、自分からどうこうじゃなくて、向こうから言ってくれましたね。

「医者 の跡継ぎをして、親孝行したいな」という気持ちからの再受験。決心して本当に良かった。

再受験しようと思ったきっかけは、医者 の跡継ぎをして、親孝行したいなという気持ちになったからっすかね。親は普通に会社に入っても多少は喜んでくれるんでしょうけど、心から喜んでくれる訳ではないと思いました。特にやりたいこともないし、「医者 になろうかな」って。それがなかったら、今頃普通に会社員になってたと思うし…。だから大きく人生が変わりましたね。合格したときには、両親はそれはもう喜んでました！自分の場合、合格の通知が来たのがぎりぎりだったんで、両親も諦めてたところに、合格して、めっちゃ喜んでくれました。お爺ちゃんのお墓参りして「受かりました」って報告して、お婆ちゃんは泣いてました。後悔しないようにと思って医学部を再受験して良かったとほんとに思います。

M クラスに入れると思っていたら A2 クラスからのスタート。周りのできているやつを見て焦りました。

最初は A2 クラスだったんですけど、まず、「皆、若いな。18 歳って、こんな若いんだ」って思いました。一浪生とかうるさいじゃないですか。パワーが凄いというか。早稲田を卒業する年の受験で、金沢（金沢医科大学）の一次に受かって二次で落ちたんすけど、「一次に受かっているので無条件に M クラス」と思ってたら、最初のテストの結果で A2 になって、若干焦って。A2 でも数

学がすごくできてるやつもいて、もっと焦りましたね。

石井先生の授業では毎回焦らされるような内容があって、エンジンがかかりました。

石井先生の授業では大学のことも話して下さったんですけど、杏林（杏林大学医学部）の名前の由来とかは「面接で使える」っていうのも結構ありましたよ。あと、今思い返すとですけど、毎回焦らされたなという感じですね。例えば石井先生は秋頃に、昨年合格した人の河合塾の模試の結果を教えてくれて、下位の大学に入った人でも模試では結構取っていることが分かって…。「マジでやばい」ってなって。なんか上手にやらされてました。僕、先生の授業で結構エンジンかかりましたもん。

最初は自信のある英語は正直やる気なかった。でも英語も「やばい」って気付いてから最後まで、ずっと文法はやってました。

僕、結構合格のために一生懸命勉強しましたよ。でも一応、早稲田の政経出てて、再受験するにあたって、「英語は余裕でしょ！」って思っていました。まだ、早稲田の政経の方が英語は難しいと思ってたんすけど、Monthly Test は普通ぐらいの順位で、面白くない結果で。実際英語長文には自信があって結構点数も高めで来てたんですよ。でも文法をなめてて、適当にフィーリングでずっとやってたから、Monthly Test の文法問題でボロボロ。最初は英語はやる気なかったんですよ。他の三科目をがんばるつもりで。でも、Monthly Test の結果から教務の人に「医学部の過去問見てみたら？文法問題あるし、基礎基本が長文を読むときにも大事だよ」って言われて見たら、その通りどこの大学にも文法が入ってて。結局、教務の人からのアドバイスもあって英語も「やばい」って気付いてから最後まで、ずっと文法はやってました。夏明けぐらいから英語のマンツーマンやりました。英語も思ったより余裕がなかったですね。朝岡先生のマンツーマンで一からやり直しました。東海（東海大学医学部）が一番簡単って石井先生に教えてもらって、まず、東海レベルを 9 割ぐらい取れるようにして、最終的に東医（東京医科大学）、杏林、日大（日本大学医学部）をやりました。過去問は文法だけを秋ぐらいから始めました。長文は時間的に授業の予習復習だけにしました。

最初は何もわからなかった数学。夜間学習で「マジでやばい」ってガチトーンで指摘されて、代官山 MEDICAL のテキストを繰り返しめっちゃやってみましたね。

文系出身だったんで、理系科目が不安でした。数学Ⅲ C はここ入ってから初めてやったんですよ。最初は何も分かんないじゃないですか。一学期の夜間学習の時に宮内先生に質問したら「マジでやばい」ってガチトーンで言われて、五十嵐先生のマンツーマンを取るようになりました。五十嵐先生はすごく優しくて、まったく怒らないので、その優しさに甘えながら、一緒にがんばってきました。数学に関しては、言われたまま、まず、テキスト

の予習・復習をしっかりとやって、五十嵐先生にもらったプリントもやりました。過去問はほとんどやりませんでした。五十嵐先生はやらせなくなかったと思うんですけど、俺、過去問好きなんで、「頼むからやらせてください」って言って、直前に形式の確認程度にちょっとやっただけです。代官山 MEDICAL のテキストを繰り返しめっちゃやってみましたね。出来なかった問題に印をつけておいて、戻って、またできるかどうかみたい。僕は数学ができないのに、A2 に入ったのでレベルがスタンダードで、全然分からなかったんですけど、必死に食らいついていきました。2 周とか 3 周ぐらいやって。Weekly Test でできなかった問題をやったりして。数学は、本当に感謝の言葉しかないです。

夏までは化学は Monthly Test が白紙でした…。でも必死の詰め込みで最終的には化学が得意科目になりました。

特に優しい先生の方が好きって訳ではないんですけど。厳しかった小林先生や及川先生とかも好きです。厳しいってというか、必要なことをきちんと指摘してくれる先生でした。その点では、化学の小椋先生にもお世話になりました。有機化学も代官山 MEDICAL に来て始めたんですよ。無機化学と理論化学も得意ではありませんでした。夏までは化学は Monthly Test が白紙で「やばいな」って思っていました。まず無機は小椋先生のスタンダードの授業で「小椋流」で詰め込んで何とか頑張って、理論は節田先生の授業で大丈夫になっていったんですよ。でも有機は授業では自分の中で納得できなくて…。夏に初めて小椋先生のマンツーマンを取りました。夏が終わる前に何とかしないとって思ったし、石井先生に相談したらそう助言もらったので。そしたら夏期の 1 タームで有機化学を全部理解できて「本当、この人、神だな」って思って、その後も継続して取りました。賛否両論かもしれませんが、俺には、そういう詰め込みが合っていたと思います。そのおかげで全体的に底上げできて、最終的には化学が得意科目になりました。授業では小椋先生のプリントを使っていました。化学は 2 学期始まってすぐぐらいから過去問を解きました。分からないところがあったら解説してもらいました。受ける大学別に全部ノートも作って五年分やりました。でも、その頃には解けるようになっていたので苦ではなかったと思います。「意外と俺、できるな」って感じて。

生物は得意な方だったので、先生からいろいろ課題をもらって取り組んでました。

生物は大学 4 年の時に軽くやってて、苦じゃなかったんですよ。むしろ得意科目で、特に苦しんだ記憶はないんです。だから代官山 MEDICAL のテキストだけじゃなくて、いろんな問題を解きたいと思っていました。緒方先生と授業で仲良くなっていたので聞きに行って、マンツーマンは取ってないんですけど、いろいろ課題をもらいました。夏休みには、緒方先生が一人一人がやるべき計画を立ててくれました。生物はすべて緒方先生から

言われた通りやって、最後だけ不安だったからマンツーマンも取りました。最後の最後で、受ける大学の過去問 4、5 年分は解きました。

Monthly Test のランキングがモチベーションを上げるのに大きい存在だった。周りと競って「勝った!」とか「負けた!」とかの勝負がモチベーションにつながってました。

闘争心は激しい方ではないと思うんですけどね。まあでも、佐々木さん（昨年度代官山 MEDICAL 卒業生 聖マリアンナ医科大学進学 佐々木雅也くん）とか友達と競って「勝った!」とか「負けた!」とか周りとの勝負がモチベーションになってました。だから特にライバルだと思っていた人は最初は佐々木さんで、途中から越後谷（昨年度代官山 MEDICAL 卒業生 帝京大学医学部進学 越後谷雅一くん）とか。その 2 人かな。越後谷は数学ができたんで教えてもらったりしたし、成績も同じぐらいだったんで。佐々木さんは英語ができるし。でも、俺、Monthly Test の総合ランキングで多分佐々木さんに一度も負けてないですよ。もし、負けてたら、やばかったかもって。佐々木さんには正直本当に負けたくなくて、常に上でいたかったんで。

まあとは言っても、ライバルがどうのこうのというより、Monthly Test で何位以内に入ろうって目標でやりましたね。でも、途中から目標クリアできなくなって「やべえ」ってなって。そう考えると、Monthly Test がモチベーションを上げる上で一番でかかったですね。ランキングが貼り出されるし、思いもよらない奴に抜かれると、「ん？何で？」みたいになるし。下のクラスやつで若干ライバル視してたやつとかに負けた時は 1,2 回あったと思うんですけど、めっちゃ悔しかったですね。下のクラスの人に抜かれると、ちょっと「うわ、上がってくる」みたいな「やばい」っていう危機感がありましたね。逆に、全然上のクラスの人に勝ってると、「お？できてるじゃん」ってなって。返却が普通の模試より早いんで。やっぱり、ランキングを貼り出すのがいいんじゃないですか。で、実際、受かったメンツみるとクラスは関係ないですね。A4 の仲野くん（代官山 MEDICAL 卒業生 日本大学医学部進学 仲野瑞樹くん）とかは化学特化型でしたけど、俺は特化ってほど生物もできなかったし、平均的に何となくいろいろできたって感じて。

成績が伸び悩んだとき「マジでやばい」って思ったけど、何かを焦って変えることはなくて。代官山 MEDICAL でやってきたことに不安とかがなかったからかもしれないです。

僕、Monthly Test とかの試験結果とかでテンションの浮き沈みはないですよ。結果が悪くても「まあ、次にやればいいかな」という感じでのらりくらり来てて。最初 A2 で入って、次とか次の次ぐらいに Monthly Test の総合ランキングに載り始めて、「俺、すげえ成績上がった」って思ったんですよ。「この調子でいけばうまくいく」

と思ってたら、夏ぐらいから順位が止まり出して、全然上がらなくて。「夏はまだいい」と思っていたら、冬になっても全然上がらなくて「マジでやばいな」と思いました。ちょっと焦ったって感じです。ただ、焦ったけど、「何か変えなきゃ」って感じではなくて。そこまで**代官山 MEDICAL**でやってきたことに不安とかがなかったからですかね。だから変化らしい変化って言ったら、11月頃から日曜日にも来るようになったぐらいですかね。それまでの日曜日はずっと家でごろごろしてた日もあったし遊んでた日もあったし、大体そんな感じです。逆に俺はそれが本当にリフレッシュだったんですけどね。それから石井先生は朝も来いって言うてたじゃないですか。だから頑張ったんですけど、僕朝が弱くて9時に行くのが限度で。おかげで遅刻はなかったと思うんですよ。授業も全部受けて、夜間学習もちゃんと受けていました。数学が弱いんで、夜間が大事でした。こう見えて家に帰ってもやってたんですよ。10時半から12時まで勉強して、1時か1時半頃に寝て9時にまた来ての繰り返しでした。朝が弱い分、夜帰ってからがんばってました。

代官山 MEDICAL の二次対策でやったことが当たって、面接では自信を持って答えられた。

パンフレットを読んでから入試には行くじゃないですか。そうしたら、東医の二次試験の面接でパンフレットに載ってる人が目の前にいたんですよ。「めっちゃ偉い人だな」と思って、そこで結構緊張したんですけど。「倫理って何ですか？」って聞かれて、それは石井先生がしてくださった二次対策でやってたのがドンピシャで「すげえ！」って思いました。対策でやった通りそのまま言いました。「絆と言う言葉を聞いて何を思い浮かべますか？」と聞かれて、倫理と絡めて答えました。「電車内で携帯を使っている人がいたらどうしますか？」と聞かれましたが、それも対策でやった通りで大丈夫でした。**代官山 MEDICAL**の二次対策でやったことが当たって、本当にすごかったです。その後は個人的な事で、内申点の悪さと欠席の多さでした。とにかく内申点のことはよく聞かれました。自分ぐらい内申点が悪い人でも受かるんだなっていう証明になったと思います。もちろん、内申点も良いに越したことはないと思いますけどね。学校を休んでたことも聞かれました。北里（北里大学医学部）は、三年間の合計で20日以上休んでいる人は健康診断という名前の追試面接みたいながあるので、気を付けて下さい。僕の場合全部個人面接だったんで、そういうのが集中したんだろうなって思います。それから東医では大学のことは聞かれませんでした。でも「早稲田の政経出たんだ、すごいじゃない。じゃあ、なぜ、そこから医学部を受けようと思ったの？」って聞かれた大学もありました。僕は大学で何をやってたかは聞かれなかったですね。早稲田という知名度で得をした感はまったくありませんでした。

北里の二次落ち…。あの時が本当に「挫折した」って感じだった。

一年間で一番辛かったのは北里の二次に落ちた時です。杏林が200番で気持ちが萎えていて、次の日に北里の一次に通って、ちょっとメンタル回復してたんですよ。なのに北里に落ちたのを1階で携帯で「今回は残念ながら・・・」みたいなを見た時は、携帯投げつけて、携帯バツバキになっちゃって。あの時、本当に死にたかったですね。初めて本当にクソ悩みました。今までの人生でそんなに悩んだことはなかったですね。それまで結構タンタンタンとこなしてきたんで。あれが本当に挫折したって感じでした。二次落ちは想像してなかったんで。でも、無事に東医に合格して良かったです。

編入をなめて受けにいったら一次落ち。焦る気持ちがそこで芽生えた。

一年目、有機と数学ⅢCなしで、よく金沢の一次通ったっていってもマークなんで。それに同じ日に順天堂（順天堂大学医学部）とかぶってて、上位層はいなかったんで。多分、ぎりぎりだったから、二次には受からなかったんだと思います。それ以外にも早稲田の4年の11月に東海の編入を受けて一次は通って、でも、ダメだったんですけど。そのときは英語と適性で、特に何の準備もしないで受けたら一次は通ったんですよ。それで、昨年もまた受けて、受かったら保険として取っておこうと思って。だから、編入に対しての勉強は一切やってないですね。なめてた感じで行ったら、一次落ちて言う悲劇が起きて、その辺から焦ったかな。11月ぐらいから。で、佐々木さんが受かったんで、「やばい、置いてかれる」って思って…。そう、そこからですね、多分、俺が焦ったの。しかも、正直、佐々木さんの方が毎回 Monthly Test 悪かったんで、このまま、2月の試験も佐々木さんが受かって、俺が落ちたら…って思って。編入はあまりお勧めしません。

医学部は毎日、みんな一緒にの授業を受けるから関係がめっちゃ濃い。

東医は年齢が上の人もいっぱいいます。一般合格だと二浪が圧倒的に多いです。推薦枠が30人あるんで現役も多いです。一浪は現役と同じぐらいで、三浪以上になると激減します。自分と同じく再受験組が今年は10人ぐらいいます。一番上の人は31歳で、マジで「パパ」って呼ばれています。医学部は皆一緒にの授業を受けるんで、関係がめっちゃ濃いつね。しかも毎日なんで。授業を選択する文系とはまったく違いますね。絶対にさばれないんで、そういう環境に慣れるように必死にがんばっています。もっと遊べるとかってたんですけど、遊べないですね。出席点もあるんで文系と比べちゃうと「面倒くさいな」って感じです（笑）。

卒業生が語る

合格への軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

岩手医科大医学部

2次合格

帝京大医学部

2次合格

もう限界だって
あんまり思わないようにすると
もっと頑張れたなって思う。

岩手医科大医学部進学 林 理奈さん(國學院大學久我山高校)

代官山 MEDICAL に決めた理由

一浪目終わって、前の予備校を辞める時に、苦手科目が英語と数学だったんですけど、数学はちょっと限界感じてて。で、伸ばすなら英語かなって思って。それまで行ってる塾も少人数で、大人数だについていけないなって思ったから、少人数の所を3つに絞ってそれぞれ体験授業を受けて、いつが休みとか、自習室あるなしとか何時から何時までとか考えてここにしました。個別の自習室があって、朝7時半から自習室が使えるのが魅力でした。あとは、石井先生とお話して、医学部の情報がちゃんとそろってるところ。2浪目だったんで、ギリギリだってもう、浪人したくないって思ってよく考えて選びました。1浪目は現役の時に行ってたところに行っていたんですけど、医学部の情報とかなんか全然情報入ってこないんですもん。

代官山 MEDICAL の授業は単元別に攻める所がよかった

好きな授業ですか。全体的に好きだったんで、特にこの先生が好き！とかはあまりない。**代官山 MEDICAL** 授業は、もう、なんかあれがいいと思います。単元別で攻める所。数学が週に6回、英語も6回あって、例えば木曜日の1限の数学の授業は二次関数だから、二次関数について体系的に全部やる、みたいな感じの授業がよかったです。前はそういうのじゃなくて、講師の先生によって違ってたんです。そういう風にやりたい人はそうやってやるんですけど。生徒でも頭いい人は自分で決められるんですよ。「先生、僕はこういう風にやりたいんでこういう風に進めます」っていうんですけど、私とかは、数学とかできない人だから、できない人とかは「じゃあお前こういう風にやれ」とか言われるんですけど。それでなんか、私が言われたのは、だ一つてすごい量の問題渡されて、それをば一つて問題解くだけだったから何が何だかわからなかったんですよ、問題解くだけだし。だからなんかその問題は解けるけど、次違う風に出されたら同じ問題だって分からないんですよ。でも、**代官山 MEDICAL** の授業はそうじゃなくて英語だったら長文なら長文で文法なら文法の授業で二次関数なら二次関数の授業で全部単元が決まっているから全体が見える。頭の中が自然と整理されて、単元ごとに理解できるからよかったですね。あとは石井先生にはいつも頼ってました。石井先生はなんか、話す内容とかもそうなんですけど、話しているうちに自分がずれていってるのを気づかせてくれるので凄いと思ってました。なんかだんだん自分で勉強していて、だんだんだんだんずれてって、こういつも直してくれるのが、すごいよかったです。なんか、だんだん足りなくなってくると、石井先生が足りなくなってくると、不安というか……。その、夏の前とか冬の前とかに補充しとけば落ち着きます。精神的な支えみたいな。

Monthly Test は自分の間違えるクセを見つけるのに役立った

なんかもうマンスリーってほんとに嫌ですよもう、私。本当にもう。でも、いやなことは必ず人生にある。だからすごく嫌だけど、やらなきゃ、マンスリー！と思って。気合を入れて。マンスリーの受け方はそれ。マンスリー！って。がんばる！って。いつも思うように解けないんですよ。大問は25分で解いてとか、数学の問題は1やってそれからここやってとか解く前にちゃんと考えるんですけどその通りに絶対できないんですよ。だからなんとか毎回それを受ける前と受けた後構成を考えて、受ける前に今回はこうやる、とか前回考えて、受けて、受けた後に絶対できないから、そういう風にできないから、もう一回時間考えて解き直す。数学だったら計算問題10問とかにかける時間と、ちょっと重い(1)(2)だけの文章問題にかける時間って違うから、こっちは半分の時間でやる、とか。時間配分は最後まで苦戦しましたね。でもそれがいい練習になったのかなあと。チェックするポイントは点数じゃなくて。点数は取れないの分かっているから、いいんです点数は。だけど、できなきゃいけないのにできなかった問題とできたのにできなかった問題をちゃんとチェックしてできたのにできなかった問題を特に何を勘違いしたかとかそれをちょっと考える。そうやって自分のクセとかをチェックしていきました。

代官山 MEDICAL のテキストと過去問だけ信じて繰り返し取り組めばいい。

代官山 MEDICAL のテキストと過去問しかほとんどやってないです。んと、理科は、得意だったんで力の入れ方としてはそんなに入れてない方。あ、生物はなんか、資料集を見て、いろいろ付け足してました。授業でやったことを資料集も勉強しました。授業でやったことを資料集に入れたり、資料集で書いてあることをテキストに書いて埋めていたり、あ、資料集でかいてあることをやってたのは復習の時間にやってました。その資料集の勉強の時に授業でやったことを資料集に書き入れたりとか調べたりとかして、それくらいですね予習復習以外でやったことは。後は受験前とかは先生に過去問のどういってこやったらいいかも聞いて過去問やって、過去問の復習やって、直前はその過去問とテキストの復習しかやらなくて。たまに思い出したい問題があるから、思い出したい問題がある時は自分が今まで使っていた問題集やって。化学は補助プリントみたいなもらったプリントやって、直前は言われた過去問やって、それ以外の問題は解いてなかった。英語は予習復習やったらあとは単語熟語を覚えてあと文法。とにかく英語をのぼすのが今年の目標だったので石井先生に相談したら、お薦めしてくださった、文法の『ファイナルステージ1000』を超やりまくりました。あと『ネクステ(NEXT STAGE)』。**代官山 MEDICAL** でもらった単語『W I Z』熟語『快速英熟語』、

『ファイナルステージ1000』、ネクステをめっちゃやりまくったのと、電車の移動中は英語なんです。石井先生の『構文α』をめっちゃ読んで、あと石井先生の授業ノートをめっちゃ見てました。それが英語で、あつ『構文α』だけじゃなくて他の長い長文を、『β』とか、特別な講習みたいなやつやの長文とかを毎日1個決めて読んで。これも石井先生に毎日長文を読んだ方がいいって言われて続けてました。数学は、テキストの予習・復習やって、あとは及川先生のプリントをめっちゃやって、後はもうテキストの復習をひたすらやって、でそれを先生に持って行って、これとこれとこれって言われてたのをひたすらやってました。テストみたいに。



限界を決めているのは自分だと気づけた時、もっとがんばれるようになった。

後悔してることは、あるんですけど、あります、いっぱいあるけどなんて言えばいいのかわかんない、忘れちゃったりする。だんだんなんか目標も立てずにもくもくと一人で勉強していると、限界感じることがあるんですよ自分に。なんか毎朝絶対7時半に来るとかってめちゃくちゃ決心しても、今日だけはもう倒れるかと思って。もう、私結構体丈夫だから、今日だけはもう絶対無理かと思ってても意外といける。気持ちで意外と「全然いけるわ」って思い始めると。いけるいけるって。これが自分の限界だって思うとそこで終わっちゃう。意外と結構いけるって思うといける。私もおなか痛って思うことはあるんですけど、「あれこれおなか痛いんじゃない？っておなかいたいんじゃないっしょ」って思うといけるいける。登校したら、授業が楽しかったから、結構おなか痛かったこととか、無理だ！って朝おもったたことも忘れちゃえるんですよ。毎日朝から登校するのは大事だったとおもいます。眠い時も、「いや眠くない」って思うといける。思い込み

大事なんですよ。思い込みすごい大事だと思いますほんとに。もう限界だってあんまり思わないようにするともっと頑張れたなって思う。

卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

日本医科大

2次合格

東京女子医科大

2次正規合格
(特待)代官山 MEDICAL の
先生は一人ひとり
気にかけてくれる

日本医科大進学 亀山 まどかさん(恵泉女学園高校)

代官山 MEDICAL の先生は一人ひとり気にかけてくれる

前は、大手予備校に一応1年間くらい行ってたんですけど、医学部のコースも家から遠かったし、特化しているのかわからなかったし。「じゃあ、だったら医学部専門塾に行こう」と思って。まあ、家からわりと近くて、調べたら代官山 MEDICAL かなと思って。

他の予備校もまわって、代官山 MEDICAL が近いからと最初は決めたのですが、今の私が代官山 MEDICAL に決めた理由を聞かれたら、答えは全然違います。まず先生が、部屋とかじゃなくて、開けているところにいること。私、部屋とか入るの苦手だったんで、すぐ話かけられるし。あと代官山 MEDICAL の先生は一人ひとり気にかけてくれるので、最終的にはこっちに1本にしようと思って決めました。

生物は高2でやっておいて1番良かったと思っています

高2は危機感が足りないんで、なかなか勉強に身が入りにくかったですね。でも代官山 MEDICAL の高2の授業は少人数だったので、いろいろ対応してもらいました。

数学の高橋典先生の授業でテスト前には学校の進度に合わせてテスト対策してもらっていました。

2学期から英語はハイレベルのクラスになりました。英語は文法からかなりしっかりやりました。あまり学校では教えてくれないような前置詞とかまで、しっかりやってもらえました。

生物は高2でやっておいて1番良かったと思っています。知識の定着が高2でやっておいたところは全然違いました。系統・分類などの高3で初めてやったところは、覚えるのが結構大変だった。やってあった前の部分は改めて深いところをやっても意外とスムーズに覚えられたりしたので、高2で生物をやっておくのはよかったと思います。

オープンキャンパスで気に入った日医は、自分に合っていると思う

私の高校では、私の学年だと医学部合格は私だけだったみたいで、学校の先生などにもびつくりされました。後で知ったんですが、校長先生が、今年の春の入学式で私の話をしたそうです。ちょっと恥ずかしいですね。

代官山 MEDICAL では、ずっと「女子医(東京女子医科大学)に行きたい」と言っていたのを石井先生もご存知だったのですが、私の適性(?)を見て下さって「君は一般の方がいいよ」と薦めてくださり、「日医・慈恵なら目指してもいいかもよ」と推してくれました。そのアドバイスを聞いて、なるべく家から通えるところで、オープンキャンパスに行きました。そのオープンキャンパスで日医はとても気に入ったんです。実際入学してみて、自分に合っていると思います。他にも代官山 MEDICAL で習っている先生に一般入試に間に合うか相談したんですね。そうしたら、全員から「絶

対間に合わせる!」と言ってもらって。しかも推薦を受けて絶対に受かるとは限らないから、ダメだったときにそこから一般入試に切り替えると現役で行くのは結構つらいかも。みたいな。あと推薦の勉強ばかりしちゃうと、一般の勉強しないな、と。それなら無理だと思って、早くから頑張って勉強した方が確実かなと思って決めました。

授業はとにかく全部好きでした

授業は全部好きでした。代官山 MEDICAL に来るのが、私は好きでした。授業で1番とかは…、とにかく全部好きでした。

石井先生の授業は、ずっと緊張していました。その方がちゃんと聞こうと思ってよかったです。授業中は「あ、そうなんだ」と参考になることを沢山言っていたので、参考にしていました。英語も、復習をどうすればいいかわからなかったんですね。でも石井先生から「文章はいっぱい読んだ方がいい」と言っていたので、私は英語はあんまりやっていなかったんで、後になってから長文は見直した方がいいなと思って。もともと私は長文の方が得意だったんですけど、入試問題を实际解いてみて、長い間長文をやっていないと読めなくなるのを実感したので、同じものでも読んだ方がいいんだなって実感しました。もうちょっと前から読むだけでもやってやっておけばよかったなと思っています。

化学は節田先生。節田先生は、楽しくて、具体例とかも分かりやすく、たまに描く絵が分かりやすくてちょっとグロイ(笑)。結構深いところまで、テストでは直接触れない原理とかまでやってくれたので、実は今、大学の授業で役立っています。

数学は高橋典先生と薄先生。高橋典先生は難しい問題中心でした。それをしっかり解説してもらって、覚えてというかんじでした。薄先生は逆に基本から積み上げていく感じ。2人とも全然違う感じですが、とてもよかったです。

生物の緒方先生は、すごく少人数でやっていたので、1番アットホームでした。すごく分かりやすかったです。2学期に考察問題を多めにやってくれて、私考察問題が得意だったんですけど、それでますます力が付いたと思います。日医の生物は全部考察問題だったんですけど、私生物で合格したと思います。他はすごく悲惨だったかはわからないんですけど、ダメだなと思ってたんですね。でも、生物だけは9割くらいとれたなと思っていたので。全部考察問題だから。だから生物のお陰だと思っています。

Monthly Test は唯一順位が出るので、しっかりやろうと大事にしました

高校は順位が出ない学校だったので、自分が何番か全然わからなかったんです。でも、Monthly Test は唯一順位がでるので、結構気にしていました。最初は落ちないようにして。途中から高3のみんなが上がつ

てきちゃって、すごいヤバイ！と思って。自分は下らないけど、上がらないみたいなかんじでずっときていて。11月のMonthly Testでそろそろ上がらないとこのままずるずるいっちゃうと思って、前日に2日間くらい学校を休んで。日曜日がMonthly Testだったんで土曜日を入れて3日間みっちり勉強を、今までの復習みたいな感じでやったんですね。ひそかに10番以内に入りたいと思っていたんですが結果10番以内に入っていて、それから結構そのまま調子よくいけました。だからMonthly Testはしっかりやろうと大事にしていました。

計画はきっちり立てて。復習はその日のうちにやると、するっと覚えられました

私は家で勉強するのが好きだったんですね。でも家だとたまに疲れて寝ちゃって、寝過ぎちゃったりしたんですね。でも**代官山 MEDICAL**に来ればそんなことはなかったんで。

あと、夏に計画を立てずにやったんですね。そうしたら、授業もたくさんあるのに「あれ、この復習やってない」みたいなことになって。消化できないことも結構あったんで。冬は**代官山 MEDICAL**でもらった時間割を拡大コピーしてそこに全部やることを書き込んでいました。それできっちり計画を立てた方がいいなと思いました。計画は是非立てたほうがいいです。私はきっちり立てる方が好きで、「次これやるんだ！」ってあったほうが良かったです。

1回復習して、これはいけると思っているけどMonthly Testで出題されたときに「あれ！？」って思うことがあって、それを何度かやったらすごく悔しくて。それで降分かったと思っても、もう一回やつくかという感じで、何回もやりました。一番できなかった問題は数学で、10回くらいやりました。数学はよくできた問題でも5回はやりました。生物は覚えてきちゃうので、考察とかは、3・4回。

あとは、授業があったその日のうちに家に帰ってから、きっちり全部解き直しとかでなくていいんですけど、1回は復習をやった方がいいと思います。次の日とか1週間後とか絶対忘れちゃうんで。その日の内にやると、意外とするっと覚えられました。

予習と復習は、復習を中心にしていました。特に1学期は予習ができなかったりしていましたし。ただ、後半になって、良く分かるようになって、演習の授業だったりは予習を結構やっていました。予習でできたらあまり復習せず、1回は見てできているか確認していました。それで大丈夫という感じにしました。

代官山 MEDICALには同じ目標の友達がいなくてよかった

友達がいたっていうのは結構大きかったです。最初は個別ブースの自習室ではなく、現役生の自習教室で勉強してたんですね。なんか、学校帰りで疲れていくと、

個人ブースの自習席に籠ってると寝ちゃって勉強できないと思ったんで。少し眠くても、「10分したら起こして」とか言って、声掛けし合っていました。あと、お菓子をあげたりもらったり、教えてもらったりあげたりしていました。それがよかったですね。だんだんみんなの成績があがって、「宿題できた！」とか言っているのを聞くとひそかに「えっ、ヤバイ」ってなっていました。なんか、意外とやんないとヤバイとおもって、やるようになったり。季節講習の時はずっと来ていたんで、一緒にお弁当を食べたり。同じ目標の友達が高校にはいなかったんで、いてくれてよかったです。

間に合わないと思ったら、代官山 MEDICALの復習の方が重要だと思いました。代官山 MEDICALのテキストは極めました

高校の勉強はしっかりしました。推薦には高3の1学期までの成績が参考にされるので、結構学校の勉強もしていたんです。でも、2学期は**代官山 MEDICAL**の勉強で完成していたので、試験勉強をしなくても、受験科目は大丈夫でした。ほとんど全部、化学とかは授業を聞かなくても大丈夫でした（笑）。むしろだんだんと、学校の先生の解説だめだ、とか思い始めて（笑）。いい先生だったんですけど、教え方はちょっとないなと思って、節田先生のノートとか見て、「ここか」とかやってました（笑）。

生物でいうと、緒方先生が夏に1人ひとりの計画表を



立ててくれて、過去問と参考書とやっていたんですね。夏はそれで1巡したんですね。それで夏が終わった後、2学期になった後、普通に授業が始まって、テキスト以外に化学の重要問題集、生物は標準問題演習をそのまま続けようと思ったんですけど、復習で手一杯になってしまっ。だんだん。どっちとも中途半端になってしまっ。

9月10月が一番焦りはじめたんですね。こっちもまだ覚えてないけど、こっちもやならきやいけないってなりました。石井先生に相談したら、「もう市販の参考書はやらなくていいから！」って言われました。2学期は最初からやらなければよかったなって。夏とか時間のある時は、確認のためにいいと思うんですけど、多分通常授業の時は高校もあるし、私は高校で内職しても終わらなくて（笑）。だから多分、やらないならやらないと決めて、きっちり塾の復習をやったほうがいいです。その後、復習がたまっ。たまっ大変だったんで。市販の参考書はやれたらやればいいと思うんですけど、夏とかは。間に合わないとおもったら、**代官山 MEDICAL**の復習の方が重要だと思いました。結局市販の参考書はほとんどやってないです。重要問題集もレベルAを1周したくらいになっちゃったし、全部1周して極めたのはないですね。その代り、**代官山 MEDICAL**のテキストは極めました。石井先生のおっしゃっている「同じものでいいから何度も」というのを、冬休みになってから急いでやって（笑）。1学期のテキストも2学期のテキストも、そればかり何回も何回もやっていました。

数学はさらに薄先生から追加の課題もでていて。1週間にこれをやっておけ、というのが結構多くて。あまりかけながら、一応終わったというかんじ。その復習

もしたかったし、一応していたんですけど、冬休みに入った時に、またいろいろ復習がたまっ。追加課題の復習は冬休みはあきらめました。それまでは、2回か3回づつやりましたね。出来なかった問題に×とかつけていたんですけど、最後まで×がなくならなかったのもありました。一応見てはいたんですけど、きっちり解き直しはちょっとできなかったです。すごい時間なかったですね。

でも、石井先生に「1日4科目必ずやりなさい」と言っていたから、それを守っていたので、成績が急下降したりすることはありませんでした。それはよかったなと思ってます。私はあまり得意不得意っていうのがなくて。日医は生物で受かったなと思いましたけど、生物があんまりだったところも。女子医は数学だったし。1科目だめでも、次がよければそんなに悪くないと思いました。4科目丁寧にやるのが、本当に大事だと思います。

入試が始まってからも代官山 MEDICALに帰ってきて、ほっとしていた

化学と数学と英語のマンツーマンを直前期にとってました。

英語は朝岡先生でした。高2ですずっと習っていて、たまに高3になってからも話しかけてもらっていたので、お願いしました。授業外でも課題プリントなどを持っていったら採点してくれて。

化学は12月で範囲が終わったので、苦手よくでる平衡の演習を節田先生のオリジナルプリントをすごい束でいただいて全部やって。少し時間があまったので高分子をやっ。とどンドン演習を自分が解いてきて、合っ。なかつたら解説みたいなのをづけました。「このプリントは鄭さん（日本医科大学2年鄭知華さん）もやったから」と言われて「あ、じゃあやります！」とかやりました。あとは、過去問。日医に行きたいなら1個上のランクを解いておいた方がいいと言われて、慈恵（東京慈恵会医科大学）の過去問とか。解説が必要なのは慈恵くらいだからと言われて。難しい問題には冬で慣れたという感じですね。

数学は数Ⅲが多分弱かったんで、基礎を埋めてもらってました。2週間前に薄先生から数Ⅲの基本がなっ。ないと言われて。「もう終わった…」と思ったんですね。でも、「数Ⅲならまだ間に合う！」と薄先生が何度も言っ。てくれて。なんで、ひたすら何をやればいいのか聞いて薄先生のオリジナルプリントを何回も同じのをやっ。間に合っ。よかったです。家帰っ。から「終わんない！」ってなっ。ましたけどね（笑）。

受験の時1番最初の岩手（岩手医科大学）はまあ、大丈夫かなという印象だったけど、杏林（杏林大学医学部）が不合格で。日医目指しているのに杏林受からないとかヤバイと思って、そこでなんか、死ぬ気になろうと思って。杏林の結果が分かった後初めてが女子医だったんで、心構えが全然違っ。て受けたなと思いました。結果女子医は特待をいただくことができて、びっくり



しました。英語は悲惨で、半分くらいしかできませんでした。でも、数学は全部できたつもり…か9割はできたと思います。生物・化学も8割くらいだと手ごたえ的には思っていました。

試験始まってからも代官山 MEDICAL に帰ってきて、ほっとしていました。日本医科のときは泣いてました。節田先生に話しながら。樹莉亜ちゃん（日本大学医学部1年（現役合格）中野樹莉亜さん）と一緒に。面接もいろいろあったけど、なんとか乗り切ったかんじでした。例えば、休みをつつこまれたこともありました。推薦狙ってたからずっと休み0だったのに、高校3年生の2学期だけ8日休んでいたの。そんなに深くはつつこまれませんでしたけれど、「どうしたの？」って聞かれました。なので、代官山 MEDICAL の面接対策の時に話を聞いていた通り普通に「医学部入試に学校が全く対応していないので、自分で勉強していました」と答えました。そうしたら「なるほど～」と言われてOKでした。

帰ったら頭痛すぎて倒れるくらいの、死ぬ気で。試験中にやれることはやったと思えるように

計画をたてて4教科まんべなく。試験中は死ぬ気で。なめてるつもりはなかったんですけど、「杏林いけるかな？」って思ったら「あれっ！？落ちた！？」ってなったんで。それくらいの気持ちじゃだめ。帰ったら頭痛すぎて倒れるくらいじゃないと、意外とだめなので、死ぬ気で。試験中にやれることはやったと思えるように。特に直前期は「これやろうかな？」と思っても「試

験中にこれで迷ったらやだ」と思って取り組んでました。試験中は「やる事やったから、これでダメならしょうがない」と思えるかんじで、全力で最後まであきらめないと、意外とひらめいたりすると思います。

日医で成績優秀者に選ばれるよう頑張っています！

日医は今年からカリキュラムが変わって、休みが減って授業が詰まった感じです。昨年まで2年で始まっていた解剖が1年ではいるみたいです。その代りベッドサイド・ラーニングが、20週くらい増えて。全部前に詰まりましたね。コマの時間は短くなったんですけど、コマ数が増えて、それでたぶん厳しくなったみたいです。今は、授業は聞いてないとヤバイです。寝ちゃうと「なにやってんの！？」みたいになりますね。私は卓球部に入ったんです。4年生で日医は成績優秀者に表彰があるんですけど、今年は2人いて、2人とも卓球部だったんで。今仲良くなっているんで、勉強とか教えてもらえるかなと期待しています。トロフィーとかもらって、「カッコいい！」と思ったんで、がんばりたいと思います。代官山 MEDICAL の卒業生が他にいるのは、心強いです。同じく代官山 MEDICAL 出身の寺門くん（日本医科大学1年寺門誠雄くん）はとってもできるんで、たまに教えてもらっています。

卒業生が語る

合格への軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

東京医科大医学部

2次合格

推薦は落ちたけど
石井先生の冬の勉強計画で
東医に合格できた

東京医科大進学 深井 亮祐君(獨協高校)

最初受けた化学の授業は、それまでの大手予備校と比べたら楽しくて。みんな普通についていっていることにびっくり。

代官山 *MEDICAL* に来る前は家庭教師が一人来ていてくれて、自分がやったスケジュールとかを管理とかしてしてくれたんですけど、「化学と生物はまだ大丈夫でしょ」みたいなかんじで。「数英を先にやっておけ」と言われてやっていたら手づかずになっちゃって。夏も大手の予備校で講習は取ったけど実践力についてはないよ、みたいな感じで夏も終わりがけて、まあちょっとやばいと思いましたね。それで母親が探してきてくれて代官山 *MEDICAL* に行こうということになりました。最初に石井先生と面談をしたときに、父が理科を何とかしてくれと言っていたことを覚えています。化学の授業を最初受けた時、それまで大手予備校に行っていたんだけど、比べてみたら楽しくて。かなりレベル高いこともやってると自分は思ったんですけど、みんな普通についていっていることにびっくりして。7月に入塾したから、他のみんなは大分力をつけていた頃で。節田先生の化学の授業を聞いてこんなに進んでいるものかとびっくりするくらい進んでました。高校の授業はちゃんと聞いていたんですけど、そんなにはつきり内容がわからなかったんです。そこで、自分、化学手を付けてなかったんでちょっとやばいかなと思いました。

入学してすぐの Monthly Test の自分の成績に絶望した。

最初に代官山 *MEDICAL* に入学してすぐに Monthly Test があったけど、全然解けていなくて化学が6点だったですし、生物が27点という結果で絶望しました。化学は問題の形式とか条件とかが変わってしまうといきなりこんがらがって、焦って解けないということがありますね。実際、気体の問題が Monthly Test に出たと思うんですけど、普通の一般的なやつはできても、いきなり「やれ」って言われると焦ってできないです。落ち着いて冷静に考えたら、もしかしてこうかかもしれないけど、初めて見る問題だったら解けない感じで。あんまり応用力がないというか、自分のわかっている解法の型にはまらないと解けないことが自分の弱点だとはつきりわかりました。だから直前までいっぱい型を入れたって感じですね。そうしたらうまくはまったという感じです。英数はランキングに載っていたんですけどね。理科はちょっと。本当に崩壊していましたね。

集団授業では、自分がわかっていないことをわからしてくれたのが大きかった。

9月から12月の集団授業では、自分がわかっていないことをわからせてくれたのが大きかったです。毎回、抜けていると思ったら、そこの基礎からセミナーでやっていたりとか覚え直ししたりとかやってたんで、授業だけでなくプラスでやっていました。

石井先生授業の中では、医系英語に関する話が面白かったです。なんか印象的だった授業は、図やグラフを書いて医学部に合格するための条件みたいな話をしている、それが面白かったかな。みんなにとっては復習みたいな形だったんでそこまで詳しくは説明してくれなかったんですけど、面白かったです。東医の小論文が本当にうまくできていたら、他ができていなくても合格していたと言っていました。ほんと、小論文は大事です。僕は手本通りには書けなかったんでしょうね。緒方先生の生物の授業が楽しかった。先生がフレンドリーで、個別に課題を出してきてくれて、時間が無い中でギュッと詰まっていたよかったです。数学は高橋（典）先生とか薄先生に習っててどちらもハイレベルの授業でしたが、難しかったです。薄先生が数学ⅠとⅡBで高橋（典）先生がⅢCだったけどどちらもやばかったです。特に高橋（典）先生が。2人とも特長あって好きだったけれども、タイプが違ってて。最後の冬休み、薄先生のハイレベルに行ったんですけど解けなくて、きつかったです。

結局推薦は12月に不合格。今年はもうだめなのかなって思っていたとき、石井先生がきちり間に合うマンツーマンの授業カリキュラムを立ててくれて、すごくよかったです。

理科3科目で大変だったけど、8割くらい「推薦で合格するかな」と思っていました。実際、東医（東京医科大学）の推薦の学科で手ごたえ的には、そんなに難しくはないです。数学は代官山 *MEDICAL* でもらった資料に書いてある通りで、解けないと恥ずかしいくらいです。化学と生物はなんか一般常識というか、環境問題が出ていたような気がします。それができなかったのと、物理は正直勝てるとは思わなかったです。そんなに差がないけど、その分、小論文の出来は多分大きいと思います。実際、入学してから「日本語の小論文が大事」と、東医の先生はそのことばかり言っていました。ヘレン・ケラーが言葉を覚えた時にどんな感じだったか、ということばかり話すので、比重が大きかったんだと思います。試験時間中にも結構焦っていたのもありますし、結局まとまらなかったですから。それで結局推薦は不合格と言われて。結果発表って12月の最初とかで、本当に時間ないなって。今年はもうだめなのかなって思っていたとき、石井先生と面談をして、マンツーマンの授業カリキュラムを立ててもらって。必ず朝から晩まで代官山 *MEDICAL* にいて、授業も4、5コマびっしり入っていましたね。でもこれくらいやってなかったら絶対間に合わなかったですね。石井先生がきちり間に合うカリキュラムにしてくれて、すごくよかったです。

化学はやばいと思って間に合わないんじゃないかと思って、マンツーマンで固めた。

化学のマンツーマンは12月から小椋先生と松永先生

でした。12月から一か月くらいで化学はマンツーマンを使ってしっかり固めて受験に臨めました。化学の理論の計算とかは覚えるものよりも得意でした。代官山 *MEDICAL* に入ったときは全然やっていなかったからびっくりしたけど、授業で一度やってからは割とできるようになりましたね。冬の直前期、化学の榎村先生は過去問プラス基礎演習をやってくれました。冬の直前期でも基礎をガーツと固めた感じでしたね。宿題もいっぱい出ました。過去問2年分を次の授業までにとかかりましたね。おかげで冬は充実していました。小椋先生はめっちゃスピードが速くて。基礎からやってくれてたんですけど、普通、基礎からやっていたら時間ないんで間に合わないんじゃないかと思ったけど、全然そんなことはなくてしっかり身についたんで、そんなに不安はなかったです。

代官山 *MEDICAL* で「これ一番ためになったな」っていうのは、やっぱり数学。自分は数学があったから受かったんじゃないかと思えるくらい、一般人試本番の数学は解きやすかった。

代官山 *MEDICAL* で「これ一番ためになったな」っていうのは、やっぱり数学ですね。東医はちょっとクセのある問題なので、その対策を中心にやったという感じですかね。佐藤啓寿先生には極限を出すことが多いという風に言ってもらって、極限対策をやってもらいました。もう出てきたら絶対取れるようにするという感じでやってくれて。しっかり力になりました。吉野先生は普段から東医対策とかをプリントを用意してやってくれていて、あの数学のマンツーマンの演習がすごい役に立って。東医の数学の形式って、穴埋めじゃないですか。穴埋め用の対策というか、そういうのをやってくれて。まあ、マンツーがほぼ東医対策だったんですけども、それがはまったというか、はまるように教えてくれたところですね。本番もマークでやって、「あつ、これきた」って感じだったですね。過去問よりも全然解けました。吉野先生のおかげで受かったといっても過言ではないです。東邦（東邦大学医学部）はマークだけど、日大（日本大学医学部）も、北里（北里大学医学部）も日医（日本医科大学）も数学は記述だったからそれで落ちたと思います。他の科目を見る以前に数学ができていなかったですし。数学と英語は大事だと思います。現役生は特に、です。浪人生は時間があるので理科が強いです。本当に吉野先生で良かったです。

英語の東医対策は本当にためになって、試験を受けていて、一番にやにやしちやいました。

英語の東医対策は、朝岡先生が冬に大学別のプリントをくれて。東医の穴埋めというか並べ替えの問題の対策とかやってくれて、それは本当にためになりました。試験中にも焦ったことはなかったですね。落ち着いて、「あつ、これ知ってる」って感じで臨めました。試験を受けていて、一番にやにやしちやいました。「これきた、

できる」って感じで。東医は現役生でもがんばれば入れるんですよね。対策をやっていたということもあるんですが、北里とか東邦よりも問題も解きやすいですし、はまれば一瞬で解けるような感じですね。



学校の授業でちゃんと聞いていたのは生物くらい。その分、代官山 *MEDICAL* でちゃんと授業を聞いていた。

推薦の時期とか冬とか、普通に学校があったんですけど、両立はできてなかったですね。ただ、生物は学校が力を入れてやってくれていたの、それはしっかり真面目に受けてました。数学はやたら難しいことをやっていたので切り捨てて、英語は逆にあまり難しくないので切り捨てて、化学も進度が遅くて夏でやっと化学平衡な感じだったのでもそれも捨てて。学校の授業でちゃんと聞いていたのは生物くらいですね。その分、代官山 *MEDICAL* でちゃんと授業を聞いていて、学校にいるときはセミナー教材を解いているか、もしくは授業を聞いている振りをして、内職をしたり宿題をしていましたね。

石井先生の二次対策、特に面接では答えというよりかは考え方を教わりました。

石井先生の二次対策、特に面接では答えというよりかは考え方、こうやって広げていくんだって感じで、この質問に対してはこうした見方があるよねっていうことを教わりました。実際その問題が出るというよりかは、焦らずに答えられたというのはやっぱり二次対策のおかげでした。急に聞かれてテンパっちゃって何も答えられない、っていうようなことはないようになってましたね。

そのおかげもあってだと思うんですけど、東医の面接は推薦で受けた時よりも、一般で2回目を受けた時の方が全然答えやすくて。一般入試では質問自体も変な



ことは聞かれませんでした。他の生徒は一般入試試験の時に聞かれていた質問でも、自分が推薦で東医受けたことを知っていて、質問をしなかったのかもしれないですけど。でも「推薦は受けた？」とかは聞かれなかったです。

東医の先生が入試のことで言っていたことなんですけど、二次試験があまりにひどいと受からないらしい。試験がよくても不合格になることがあるって。

東医の先生が入試のことで言っていたことなんですけど。なんか、二次試験の小論文が思いつき点数化されているらしくて。ドイツ語の先生が今年退職らしくて、これで思いつき言えると教えてくれました。二次試験があまりにひどいと受からないらしいです。ちゃんと加算されて順位付けをしているらしいです。すごく良く書けていたり、面接がすごく良いと逆転して合格できるみたいです。推薦の時は本当に小論文がメインなので、しっかりつけたと言っていました。先生達同士で「この文章はいい」とか言っていたらしいです。試験会場にいたのも、ドイツ語の先生と哲学の先生とかで、小論文を見ているのもこれらの先生かもしれないです。

金沢医科大学もあまりにも面接とかがひどいと、試験がよくても不合格になることがあるって。センター利用で89%とかを取った人が補欠が遅くて、86%とか87%の人が来てたりするのに、それより上の人に来てなかったりするって聞いたことがあります。やっぱり面接か小論文でダメだったか、っていうのはちょっとわからないですけど…。

代官山 MEDICAL の知り合いが同じ学年にも先輩にもいて、やっぱり心強い。

代官山 MEDICAL から今年は、僕以外に神谷くん（神谷知紀くん）と石田さん（石田由利さん）と秋山くん（秋山真哉くん）が東医に入ったけど、知り合いがいるのはやっぱり心強いですね。すれ違った時に話したりもします。石田さんはすごいなじんんでいますし、秋山くんも元気で。相変わらず静かでクールなイメージですけど、話してみると楽しいです。神谷くんは頭がいい感じですよ。

東医でのキャンパスライフは、今年からカリキュラムが変わって厳しくなったから、先輩みたいにそんなに遊んでるわけじゃないんですけども、でもまあ、楽しいですね。代官山 MEDICAL の先輩も会ったりもしてるんですが、声はかけてないです。野原さん（代官山 MEDICAL 卒業者 東京医科大学2年生 野原有由さん）は、神谷くんたちが同じ部活に入ったんで会ったと言っていました。

時間がない現役生がやるべきこと。

化学と生物の暗記をするために1冊暗記本を作るとか、単語を書いたりとかして時間があるときにそれをしてほしい。隙間の時間を見つけて、化学と生物のことを覚えるようにすると何とかなります。あとは石井先生にカリキュラムを組んでもらって頑張ってください。

卒業生が語る

合格への軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

帝京大医学部

正規合格

**受験後、これは受かったって
確信したけど、親は
信じてくんなかったんです…。**

帝京大医学部進学 新保 雅大君(東邦大付属東邦高校)

高2から始めた医学部受験。

帝京めっちゃ楽しいっすよ。友達結構できた。みんな仲いい感じで。男の子が断然多くて、女の子は仲良くなった子、2〜3人いるかな？学年全体だと女の子30人くらいいるんだけど。まあでもいいペースでなかよくなってきてるかなって。

勉強は物理とね、化学と、あと英語はついていける。生物が一番…大変ですね。(物理選択だったから)やってないし、どの科目より量が多いんですよ…。統計学とか社会学とか、心理学とか教養的なやつがやばいです。医学部楽しいけど勉強はやっぱ大変っす。

医師になりたいっていうのはいつの間にか思ってた、でも医学部ってなかなか行けるもんじゃないって思ってたんだよね。もともとは駿台とか行って、ほんと「一応」勉強してるって感じだったんだけど。一応そのときも「医学部を目指すため」とは言ってたけど、そんな感じはほんとではなくて。**代官山 MEDICAL**に高2で入ってから、ちゃんと医学部に照準定めて、ちゃんと目指し始めたって感じだった。ここに来ようと思ったのは、高2になってそろそろちゃんと目指さないとまずいねって親と話して、自分的にこういう塾がいいっていうポイント、たとえば集団授業は少人数がいいとか、個別の授業がとれるとか、親にリクエストして、そしたら母親が探してきてくれました。そっからですね。

英語とか化学とかは最初からマンツーマンとってて、樫村先生の化学はわかりやすかったし楽しかった。まだやる気が足なかったから、勉強はしてたけどそれだけじゃ続かなかったから、ちょっと雑談とかも入れてくれて。高3とかだとそんな甘っちゃ悪いこと言ってるんじゃないけど、まあ2年の最初だったし勉強してなかったし。でも高校3年生になって**代官山 MEDICAL**の授業もふえて、本科と同じマンスリーも始まって、春くらいに意識変わって、学校の成績自体はそんなに変わなかったけど、模試とか上がって数学は偏差値60は取れるようになってきて。そっから徐々に化学とか物理とかも偏差値60超えたり70超えたりで。英語については…ノーコメントで。(笑)勉強の意識変わったきっかけは、2年の1月になって、やばいあと1年しかない！って思ったのがありました。2年の頃は数学とかは解いてて意味がわからなくて、理解しようとしてなかったんですけど、高3になろうとしたときにそういうのを理解しようと思って理解し始めて、勉強は意外とできるもんなんだってことに気づきましたね。そっからですかね。あ、やろう勉強、って思ったの。いろんなことを理解するようになったのが大きいですね。やってもできないかもしれない、って思ってたのが、やればできるんだ、って確信に変わったのが大きいです。つめこんで覚え始めて何でそうなるのかとか理解してだんだんつながってきて、意外と数学行ける！ってなって。俺ははじめ数学得意とかぼざいてたんですけど、先生にも言われたけど、全然得意じゃなかったですね。でも最終的にはほんと

に得意になりました。物理もね。結構いけるようになりました。寺澤先生は厳しかったっすね。毎回怒られてたけど、すごい楽しかったし。80分間ずーっと怒られない時はまずなかったですね。少人数だから、出来てないところもまるわかりだし。

月1回のMonthlyTestはだめでしたね。模試は取れるのにMonthlyTestはなかなかとれなくて。でも模試と医学部入試は違うから。模試でとれても医学部入試では取れないし、でもMonthlyTestとれたら医学部入試の問題解けるから。でも相当苦戦しました。最初だけでしたね、調子よかったの。周りが伸びてきて、やばいって思って、現役では最初数学トップだったけど、周りが追い上げはじめて俺の得意教科がなくなってきて、それからやばいってなって、すごいエンジンかかってきたのは高3の夏くらいでしたね。夏は結構頑張りましたね。よく頑張った！よく休まなかった！高2の時は全然勉強しなくて、平野先生が怒ってるよとか勉強しなさい、とか現役担当のスタッフさんにもめっちゃ言われて。勉強はできないもんだと思ってたし。でもやればできるってわかってうれしかったんですよ。

高3になってから学校が終わったら即代官山 MEDICALへ直行。

高3になってからは、午前中だけの日とかも結構あったんで、終わったら即**代官山 MEDICAL**に来てました。学校でやってることは医学部専門ってわけじゃないから、学校の事にはこだわらないで、医学部対策だけやってるみたいな感じで。数学はベーシックのテキストを副教材としてもらって、みんなやれ！っていわれてやりました。平野先生の黄色チャートもやってて、薄先生も平野先生も基礎を重視しろ！って感じだったので、そこを重点的にやってました。基礎を固めれば応用も解けるようになるって話だったんで。公式とか、「これ覚えた方がいいですか？」っていったら、「こんなの覚えなくていい」って言われたんですよ、何か難しいやつ。そんなことより基礎やれ！って言われるくらい、基礎固めでしたね。夏ごろ薄先生にいわれて、こういう問題が出たらこの手順っていう定石を身に付けていきましたね。

化学は、そうすね、molとか、ほんと基礎なんですけどそこの認識があんまなくて、molってボルツマン定数からきてるけどmolってなんだろうってところからはじめて。電気陰性度とかもどうしてそうなるかとかの理解。そういう基礎中の基礎みたいなところを覚えてから、後は先生が授業中言ってた、計算するときはどうやっているかというのを覚えたり理解したりして。理論については一から理屈を入れてもらって、なんとなくとかこんな感じとか曖昧なところをなくしたらわかるようになって、難しい問題も解けるようになりました。

物理は寺澤先生の授業でこういう問題が出てきたら…っていう手順を教えてもらって、わからないところ

や苦手なところが出てきたらマンツーマンでつぶしていききました。現役生は学校も行かなきゃいけないし時間がないんで、効率よくやりたくて。

冬はほぼ高校もないし朝から晩まで**代官山 MEDICAL**にいて、朝弱いのはわかってたから日曜の朝とか1限にマンツーマン入れてもらって、寝過ごして遅刻しちゃったりしたことあったけど、克服しようとは頑張っていました。1つ1つの授業ではちゃんと何を学ぼうっていうのを決めてました。集団はテーマ決まってるし、宿題とかで次何やるかはわかるから。個別の授業では、わかんないところ、とくに物理とか化学とかは来週はこれ！次はこれ！って決めてたんで。英語は、単語・熟語は、高2の時からやってたんすけど、なんせ覚えらんない。なんかできないんすよねー。速単で文章読んでもなかなか覚えられなくて、シス単全部やったけど覚えらんなくて、石井先生に相談してWIZやって、って。いろんな先生と相談して、短い文章読めって言われて、だいぶ入ってきましたね。真面目にやってるつもりで意識が低かったんですかね。亀山さん(日本医科大学1年(現役合格)亀山まどかさん)とか英語できるから、やばいよ俺英語出来ない、って焦っちゃって。それで焦って、順天の過去問やりたいうやりたいうって先走ってたから、先生もちゃんと言ってくれたんだと思います。

石井先生の授業は、高校に行ってるだけだとわからないことをいっぱい教えてくれた。

石井先生の授業は集中できて、いい感じの空間でした。涼しくて、集中できて、ピリツとして。眠くなっちゃうときは絶対「じゃあ新保君。」って指されて。それもよかったですね。俺が眠いのバテましたね。(笑)石井先生の授業はわかりやすくて、それから英語がわかった！ってなっていましたね。文章読まなくても並び替えるメソッドとか、教えてくれるから、あれやってるのとやってないのじゃ全然違いますね。特に石井先生からは、医学部のことも、高校とか行ってるだけだとわかんないこといっぱい教えてもらえるんで。

基礎を固めたことはすごい大きかったと思います。おろそかにせず。ほんと応用の問題は解けなかったですね。それで結果的に難しい問題も解けるようになったし。物理・数学についてはそれですね。集団とマンツーマン両方とって、集団でわかんなかったことをマンツーマンで徹底フォローみたいなバランスもよかったです。樫村先生とか朝岡先生、平野先生からもいっぱいプリントもらって、めっちゃお世話になりました。とくに樫村先生や平野先生は2年の最初からお世話になってたので。

夏にライバルが解けた物理の問題が俺は解けなくて、あまりの悔しさに泣いてしまいました。あの時の悔しさはやばかったっすね。なんでこれ解けないんだって思って。河合塾の記述模試で偏差値75とったのの少しあとだったから、それもあるのかもしれないです



ね。あれは自分でもびっくりして。その後物理勉強しなかったら偏差値60切っちゃって、頑張って戻したんですけど、もう一度は取れなかったですね。勉強しない期間作っちゃうとだめですね。冬から、ライバルに先こされて悔しいみたいなのがなくなって、ライバルが解けない問題を解けることもちらほら始めて、なんか俺できるようになったなーみたいなのありました。

合格したのを親は信じてくれようとしなかったです(笑)。

帝京って学費下がって杏林より安くなったみたいで、それもあるのかもしれないですね。帝京は30分時間余って、あ、これ受かったなって実感ありました。今年は2回も大雪降ったんで大変でした。日大のときとか。2日目は雪だるま親と一緒に作りました。笑 母は俺が帝京に受かってすごい泣いてましたね。家は歯医者なんで、兄が歯医者、俺は医者、って感じですね。うちで医学部に入ったの俺だけですね。これは受かったってずっと言ってたんですけど、親は信じようとしなかったんで、結果みせてよかったですねー。

卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

聖マリアンナ医科大 2次合格

お気に入りの先生は、数学だと
薄先生良かったですね。
えーと、あとはあの人。
平野先生！平パン！

聖マリアンナ医科大進学 佐々木 雅也君(仙台第二高校)

大学は、とても楽しいです。みんなが親しくしてくれて(笑)。

あだ名でパパとか呼ばれたり、パパを短縮してPPと呼ばれたりして、代官山 MEDICAL にいるころのようにみんな接してくれていますね。僕だけじゃなくて、30代の人結構いたりして、37歳二人いて、その次36歳、で次僕、あと女性も30歳の人ひとりいて、だからすごいやりやすいですね。部活入ったんですよ、アイスホッケー部。医者は絶対に体力必要ですから。本当はゴルフ部とかゆっくりやればいいのかと思ったんですけど、勧誘期間中にいろいろ見て、アイスホッケーの試合とか見たり、体験したら、かつこよくて。かつこいいし、熱いんですね友情みたいなのが。6年間だし、そこだけ熱いスポーツやりたかったんです。医者になってからすごい体力必要じゃないですか。今頑張って体力付けてやっとならば、将来のためになるかな〜という悩んだ結果、入りました。すごく楽しいです。

大学での勉強は難しいですね。実践的で覚えることが多くて大変ですけど、できないことはないです。

うちの場合は数学とかなんですよ。代わりに解剖学を既に始めていて、実践的な。覚えることが多くて大変です。ただ、生化学と生理というのがあって、それが難しい。想像してたより難しくって、かなり細かく、体内で何が起きているかを考えないといけないので難しいですね。生物選択でよかったと思います。生物を受けてない人も半分くらいいて。僕たちはミトコンドリアが何をしているかっているのは受験のおかげで知ってるんですけど、それを知らないんですよ。すごくかわいそうだなと。生物やってたからすごく有利ですよ。僕は英語ができるんで、英語が得意な分、他に費やせるんですけど、英語は出来た方がいいですね。英語落として留年する人も結構いるみたいで、それは悲しいですね。中間試験もうちの大学はあって、それがあから勉強するというのもあるんで。テストは難しいですね。今はたぶん真ん中寄りには上にいる感じだと思うんで。もっと頑張らないとなってる感じです。代官山 MEDICAL の同学年のみんなも同じくらいのところにいますね。みんなと一緒に勉強したりとか。福村君(同じ代官山 MEDICAL 卒業生で、現在、同大学1年生)なんか結構上で、もしかしたらひとけた台かもしれないですよ。すごく優秀ですね。すごく出来る子です。受験勉強と違って、身体に直結することなのでやりがいがあります。ただ、月曜日から金曜日までものすごく授業が多いというか、9時に行って5時までなんですよ。で6コマ入るんですよ。それが月から金までで、その中で休みが一コマなんですよ。週に29コマあるんですよ。こんなにやるんだって思いました。僕の前の大学は好きに選んで空き時間つくれたけど、それと比べていたのでびっくりしました。一週間があつという間です。

代官山 MEDICAL を選んだ決め手は、医学部受験に特化した予備校だったから。

はじめは、石塚さん(代官山 MEDICAL 卒業生で、現在東邦大学医学部2年生)と編入のやつやっていた、はじめ普通の予備校に行こうと思って、値段の面でも安いですし、どうしても向こうの方が安いし、なので普通の予備校に行ったんですけど、どうしても医学部の情報が少ないし、周りが私立医学部コースだったんですけど、周りの高いモチベーションをいまいち体感できない。全員が全員医学部を目指しているわけではなくて、学校の中に入ると医学部目指している人もいるし理系じゃない人もいって、自分がどれくらい頑張っているのかというのがわからなかった、体感できなかった。

あと、特に代官山 MEDICAL は、ちゃんと見てくれるし、ケアしてくれると思って入って、実際そうだったんですけども、あとは情報の多さと、ライバルがみえやすいことですね。

価格も他に比べてそんなに高くなかった気がしたんで。正直マンツウとかいっぱいいると最終的には結構かかってしまったけど、ベースの部分はそんなに高くなかったんで。

一度きりの人生だから好きな仕事でやりたかった。

再受験という形で受験したのは、きっかけはたくさんあるんですけど、で、まあそうですね結果やっぱりやりたいと思う気持ちがあつて、一度きりの人生だから好きな仕事をやりたいといというのがあつて。それで決意しました。

あとはやっぱり代官山 MEDICAL のサポートがあつてはじめてできたかなと思いました。それがないと絶対無理なので。

代官山 MEDICAL に来て、しっかりと基礎からやり直すことができたのが合格した決め手だった。

一年目普通の予備校で数学とかもやったんですけど、一般に変えてから2年目で代官山 MEDICAL に来て、結局二年目ここに来てテスト受けて、はじめに、全然できなくて、「何やってたんだろう1年間！」とおもって、また一年間基礎からしっかりやろうと思いました。とにかく、授業の内容を予習は出来る限りして、時間的に無理のあった部分もありますけど、目を通すようにして、あとは復習。テキストだけやってました。数学に関してはそうですね。化学はテキストとそれプラス、基礎の穴埋め式のやつとかをちょっとやったりしてましたね。でもやっぱ、授業がすべてだと思えますよ。

お気に入りの先生は、数学だと薄先生良かったですね。えーと、あとはあの人。平野先生！平パン！

平野先生もすごく僕は合っていました。なんか丁度よく厳しくやってもらって。

僕はたぶん、年齢の面もあったんですがすごく厳しくはされなかったんで、ちょうどよかったです。質問するとすごい的確にアドバイスしてくれるし。僕は好きでしたね。数学はその2人ですかね。でも及川先生も為になったと思った。あの緊張感のあるのが逆に良かった。受けている時はこわいな～と思ったけど、結果的にはすごく自信になった。

化学は節田先生がよかったですね。聖マリの対策のプリントをくださって、記述問題が的中だった。

試験の直前に節田先生のマンツーマンを取って、そこで結構伸びたかなと思っていて。あとはマンツーマンの中でやったわけじゃないですけど、聖マリの対策のプリントをくださって、それを聖マリの試験の前にやったんです。それ以外は特に対策してなくて、対策資料を暗記というか、頑張っただけで覚えるようにして、そしたら結果的に受かって。化学はものすごく自信なくて、最終的に成績が一番ダメで。最後まで自信なくて。でもそれが出来たと思えたのが聖マリだったので、結果的に受かってました。

計算の化学とかが苦手で、理論の陽子は回っているのかっていう方が好きで、そういう記述が出たのが聖マリだったし、その節田先生のプリントだったんで楽しく出来ました。

マンツーマンでは、理論を一からやり直して。抜けているところがないか確認したり、すごく基礎の事をやってもらいました。

最後の最後まで化学は穴がありましたね～。数学はちょっと自信ついてたんですよ。

最後か、最後から2番目のMonthly Testで平均いったんですね。それが結構自信になりました。難しい問題は解けないけど、ハコイチとかの基礎の問題は落とさないみたいな。

実際岩手の数学とかもすごく出来て、それ基礎ばっかだったんで、基礎は出来たんで自信になりましたね。全教科大切なのは基礎だと僕は思います。生物は前期は結構自身があって、他の教科に比べたら出来るほうかとおもってて、それでちょっと疎かにしていたら、最後の方はちょっと自信ももてず、普通かなって感じですね。村杉先生は、僕は良かった。

冬期とか冬の授業しか取れなかったのですがすごく良かった。あの方の教え方って、絵をかいて教えてくれるんですよ。かわいいキャラクターで猫とか出てきて、あとはシンプルにインパクトのある絵をかいて教えてくれるので、それを自分で覚えて、その絵をかきながら用語を思いだしたりとか記事を思いだしたりしてい

ました。

なのですごく役に立ちました。難しいことも噛み砕いて教えてくれる、簡単な例にして教えてくれるので分かりやすかったと思います。

代官山 MEDICAL では気軽に先生に質問ができ、後回しにしない。忘れちゃうので、僕の場合は授業中にも聞いてました。

聞いたら授業止めちゃうかもしれないですけど、周りも「私もわからなかった」と言ってくれるから、せっかく少人数でやっているんだから僕は聞いていました。生物だと緒方先生もお世話になりました。面倒見があなたの方はすごくいいですね。カリキュラムは実行できなかったですね。盛りだくさんで、過去問を夏休みにいっぱいしようと思っていたんですけど、それどころじゃなかったですね。



代官山 MEDICAL の夏期は、あっという間だった。

何やってたかという、やっぱり一学期の復習。それだけでも結構手一杯で時間がかかった。夏の数学の新しい単元やるのでその復習。正直すべては出来なかった。時間が足りなかったですね。特に新しいことはしてないですね。とにかく復習でした。マンツーマンでも一学期の復習でした。自分で解いてみてわからないところをノートを見て、チェックマークをつけて何回やったかを確認して、完璧にできるまでやる努力をしました。すべてがすべて完璧とまでは行かないけど、全部にチェックマークがつくように努力しました。数学が一番力入れましたかね～。単科は、結構自習時間が欲しい方だったんで出来るだけ少なく少なくて思ってたんですけど、でも結果的に結構増えてしまいましたけど。

お金に余裕があるのなら単科よりマンツーマンがいいかと思っています。値段も違うんで。自分に合った先生と勉強できるのが一番効果的かと思っています。

2学期から冬にかけても、授業内容を第一に、しっかりおさえることにはわりはなかった。

数学は千葉先生にもお世話になりました。千葉先生はたぶん、ぼくの伸びを一番感じてくれた方だと思います。身近にいたので。2学期から冬にかけて、一緒にすね。とにかく授業のことをやる。一学期の事を完璧にできてないので戻って、復習して。化学はもう、2学期でも1学期のテキストをガンガンやろうと思ってやりました。

苦手科目なので。数学は夏やり残したこと、夏に新しく入ってきた単元を完璧にしないまま2学期に移行していたので、夏の復習もやっていました。僕から新しいことには手を出しませんでした。

過去問は応用系は全部やらなかった。とにかく基礎でした。

石井先生の授業で過去問使うじゃないですか。それでこんな問題が出るのか～ってわかってたし解けていたのでやらなかったです。必要なかったですね。

数学は千葉先生と一緒にマンツーマンの中で手伝ってもらいました。やってって持つてく。授業の中で分からないところを解説してもらおう。それが11月とか12月。結構ギリギリですね。

金沢とか岩手は5年分ずつやりましたね。あとは東海とかその辺ですね。

結局難しい問題とか、応用って、そこで解けても、また同じ問題が出るわけないので、だから基礎だけやりました。化学はほとんどやっていないです。過去問をやる暇がなかった。

化学のテキストも数学と同じで、過去問からとってるじゃないですか。だからそれをやってればいいんで。厳選してあるので。節田先生もそれをやっていけばいいとおっしゃってましたし。

やっぱり、問題やって過去問とか、例えば自分で赤本とかやって、でも解説ってないじゃないですか。簡単なものしかないから。それよりは授業でやったノートがあるのでそれでやっていましたね。

生物は、ちょっとやりました。

数学と同じような感じですね。

あとは、センターやりました。センターの考察がよいという風に緒方先生がおっしゃっていたので、それをちょこっとやりました。結構役に立ちました。時間配分とかわかりましたし。

生物もやっぱりテキストかな～。

受験校は「受けれるものは全部受けない！」と思っていました。

2つかぶったときは可能性がある方をとって、僕の場合

合は年齢もあるので、埼玉とかは避けました。僕の場合はどこでもよかったので、悩まなかったですね。受けれるところを全部受けました。地方が嫌とかも全くなかったんで。神奈川東京多いですね。僕仙台出身なんですけど、仙台の方もいますし、鳥取の方もいましたね。仙台より全然遠いんですね。その鳥取の彼は37歳ですね。でもパパと呼ばれるのは僕だけです(笑)。

繰上は3月の18日とか19日とか、そのくらいでした。涙が出そうでした。泣いちゃいましたね。

長く感じましたが、たぶん大丈夫だろうと思っていました。ふたを開けてみたら結構早く繰り上がっていたので、繰上が始まって2、3週間してこのペースなら大丈夫かなと思ってきたかなと。もうここに入る準備してましたし。母親に電話して、その時が一番うれしかったですね。

年齢とかを言い訳にせず、とにかく諦めないでやってよかったです。

編入とか受けてると、一回医学部を目指したんだけど妥協して、もうダメだと思って歯学部に入学したんだけど「やっぱり医者になりたい」とか、思い直す人も多いし、でも本当に目指すんだったら、一からやり直して、一般入試を狙った方が得策です。周りのサポートがあるんだたらつづけたほうが良い。そのうち受かる。7浪の友達も実際にいるし。5浪以上も結構いるし。入ってしまえばみんな一年生で仲良くやっているし、多浪だから、浪人多いからなんてそんなことはないの、入ったら楽しいので。入ったらいろんな人がいるので、年齢とかを言い訳にせず、あきらめないで頑張っ

卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

岩手医科大医学部

2次合格

石井先生が精神的な支えに
なってくれたのは大きかった。

岩手医科大医学部進学 三原 彪君(江戸川学園取手高校)

代官山 MEDICAL は親が決めてくれました。

現役で、埼玉の後期がまだ残ってたんですけど、その時点ですでに机の上に予備校のパンフレットが置いてあって。親が持ってきて。全部終わってまだ埼玉の結果出てないんですけど親が「次こね」みたいな感じで全部勝手に決められたんですよ（笑）。それで**代官山 MEDICAL**に。なのであんまり自分で決めてない…。でも授業体験もして、「いいじゃん！！」って感じで（笑）。

好きだった授業はたくさんありました。

Bコースだったので、マンツーマンだと一番好きだったのは、寺澤先生・朝岡先生の授業が好きでした。寺澤先生の授業は、たとえば電信柱とか実際あるものを全部物理で説明してくれて、どんどん好きになって、こう、好きにさせてくれるところがめっちゃよかったです。朝岡先生は、過去問とかやるたびに毎回見直した時にわかりやすくまとめてくれて、文章の流れとかもそのノート見返したときに、そのノート見ただけでわかったりするので、そういうところはよかったです。あと、何したらいいとか聞いてもすぐじゃあこれやってって言ってその都度必要に応じて指示してくれたんで、そういうところがよかったです。

石井先生が精神的な支えになってくれたのは大きかった。

精神的支え、今になって言いたい、すごい大きいっつか。たぶん石井先生が冗談のつもりでも「受かります。」みたいなことをいうんですよ。その言葉がなんかこう、安心する。そういう小さいことでもすごいうれしかったですし、授業は、構造とかとる時とかも、英語っていうよりはちょっとゲーム的な楽しめる要素があったりして。そういうのよかったです。楽しくできた。

Monthly Test で出た問題は必ず復習して、同じ問題が出ても解けるようにした。

最初は英語がたまたまできちゃって化学はよくなくて他は普通みたいな。なんか最初のうちはあまり考えないようにしてて、とりあえずずっと基礎やってたんで。ただ基礎の問題ができればいいかなみたいな感じでやってて、Monthly Test については秋冬くらいは解けるようになったらいいから、まあいいやみたいな。でも各 Monthly Test が終わってからその問題は、また同じのが出ても解けるように解き直したっていうのはありますね。数学とかは特に。数学は最初上って夏以降は全教科上ってみたい。とりあえず同じ問題を何回も。次出た時も解けるようにしてました。Weekly Test なんかも物理は寺澤先生に聞いたら、実は、結構国立とかの問題で、きちんと考えさせられるとか言ってたんで、Weekly Test のためになんかしてたわけじゃないんですけど、終わってからその問題を演習用にしてました。

代官山 MEDICAL の夜間はわかんないところを**質問して、考えて、質問しての繰り返しだった。**

英語は、なんか前期の時のっていうか最初の時の、熟語あったじゃないですか、あれをもう一回ちゃんとやって、その場で覚えてその場で忘れるんですよ。それをちゃんと復習してたらなあって思いましたね。数学はよく覚えてない。物理はとりあえず難しかったような。結構考えさせられるやつでした。ひたすら質問して、わかんなくて考えてわかんなければ質問してみたい。ずっとその繰り返しで。役に立ったんじゃないかな。

代官山 MEDICAL の夏期講習でやってよかった勉強法。それはひたすら基礎でした。

平野先生に1学期のテキストをひたすらやり直してって言われてて、正直これはちょっと簡単すぎるんじゃないかなってちょっと萎えてたんですよ。でも意外とできてなかったりとか、すぐできなかったとことかあって、それをやってよかったなって思ったし、過去問もやりました。

2学期は結構重かった。遊ぶことも考えられないくらい頑張った。

夏は1学期のやつもやったんですけど、2学期はやってるテキストやってた。だって2学期は結構重かったんで、数学とか特に。だからそれをやってました。夏は余裕があったわけではないけど苦手な部分だけ、自分があんまり得意ではないなとおもうとこだけをやってましたけど、2学期は遊ぶことも考えられないくらい頑張った。それでもさすがに復習が無理だったなって思って、だから2学期からはちょっと開けてもらって調整しました。

代官山 MEDICAL で1年過ごしてみて今言えること。

とりあえず自分流に走らないほうがいいなみたいな。とりあえず問題でわからないのあったらそのまま聞く前にちゃんと考えてきくのが普通なんですけど、何をすればいいかわかんなくなったら、自分で考える前に聞いた方がいいなって。あとは、復習できなかったやつをできるようにすることと、結構冬とかになるとかなりストレスとかでおなかの調子とか悪くなってくるんですよ。一番そういうのを整える上でマジでよかったなものはピオフェルミン。マジであれを飲むとほんとにおなかの調子がよくなってくるんですよ。ほんとに朝いつもトイレにこもってたんですけど、それ飲み始めてからマジでトイレの時間減って、試験のときとか普通に全然大丈夫。マジでおなか弱い人は飲むといいと思うマジで（笑）。勉強頑張りすぎた日なんかは、何も考えずに寝ちゃったことがあって、一コマ丸々寝ちゃったことがあって、次の予習をやると思ってたコマなのに、寝ちゃって…。だから一日だけ頑張りすぎるとかじゃなくて均衡のとれたスケジュールを組んで勉強するのが結局一番いいと思いました。

卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

帝京大医学部

正規合格

3浪目で厳しい環境でやるという
覚悟を決めた自分を見て、
友人が紹介してくれました。

帝京大医学部進学 越後谷 雅一君(桐蔭学園高校)

大学に入って毎日充実した大学生活を楽しんでいます。

帝京は結構現役や一浪が多くて、落ち着いてるとか怖いとか言われたりしてます(笑)。勉強はまだ1年なんで、ほんとのきつさはわかってないし、教養課程などでやばいなっていうのは英語くらいですかね。でも今まで代官山 MEDICAL でやってきたんで、今までの俺とは違いましたね。苦手だった英語もなんとかなってますね。学費も下がったからかもしれないんですけど、けっこう真面目にしっかり勉強するタイプの人が何人も入ってきて、俺はよくわかんないけど一個上の学年の成績がヒドイって先生方が言ってるんですけど、今年は真面目だから期待してるよみたいなことを言われてて…(笑)。部活はゴルフ部に入って、スキー部も兼部したいな一って思ってた。ゴルフは意外と面白くてはまってます。ほとんど初心者みたいなもの、ラウンドは2〜3回しか経験がないんですが。打ちっぱなしとかは親父と行ったりしてたんで、練習場で打ったりするとうまいねとか言われてうれしかったりするんですけど、回るとなるとそれが生かせないんですよね。別の競技って感じ(笑)。

3浪目で厳しい環境に入る覚悟を決めた。

代官山 MEDICAL に入学したのは浪人の試験中に長谷川(代官山 MEDICAL 卒業生日本大医学部2年生)と知り合って、ずっと一緒にいて、結局ほかの学部は受かったりして、もう一浪するかほかの学部に行くかを親はもちろんだけど長谷川にも相談して。長谷川はやっぱ、もう一浪するのはいいと思うけど自分が代官山 MEDICAL に紹介するからにはちゃんと覚悟決めて自分でやるって決めてやるんじゃないかな俺は紹介したくないよって言われてたんで。それ親とちゃんと話して、そこはやるって自分で決意して、親に頭下げてもう一浪させてもらうことにして、それで代官山 MEDICAL に入ることになりました。うちは産婦人科なんですけど、妊婦さんって診てくれない歯医者さんは多いみたいで、そういう歯科とかやってくれるんだったら。って感じで他の学部もちらほら考えたんですけど、でも親父は絶対医者にさせて跡継ぎにしたいから、三浪しろ、って言って。母さんは俺の気持ちがもたないだろうなってところを心配して、どうしようってなったけど、母さんが心配してたのは俺の気持ちのどこだったから、ちゃんと俺が向き合ってもう一年やるっていうのをちゃんと話せたから納得してくれて、親父はもともと三浪でもとにかくやれって感じだったからまあやらせてもらえることになって。

そしたらまあ当然じゃあ(予備校)どこ行く?ってなって。その分長谷川にちゃんとやるって決めたから紹介してくれて話して、それで医学部専門予備校の代官山 MEDICAL を紹介してもらってここにきましたね。

他の予備校にはない、代官山 MEDICAL にしかない良さ

渋谷の他の医系予備校で1,2浪目とやったんですが、ダメで、3浪目の厳しい(笑)代官山 MEDICAL に来てやっぱり、根本的に違いましたね。成績下がってやばい時期とかはあったんですけど、それでもなにより1年間通して通って勉強してたっていうのが大きいと思いますね。1,2浪目はそれがうまくできなくて、1浪目は全然ダメだったし、2浪目は特に前半は自分の不得意とかもわかんなくて自分の勉強につなげられなくて。でも代官山 MEDICAL での3浪目は自分を認識することができてたので、なんとかスタートがよくて、乗り切れたって感じですかね。3年とも渋谷にいたんで、通学から帰宅までの時間の使い方とか通勤ラッシュへの慣れとかはあってまったく辛くはなかったです。1,2浪目と変わったのは、気持ちが全然違いましたね。それで行動が変わったのかなって感じで。代官山 MEDICAL に来て、先生のよさに圧倒され、「苦手なことをやらなきゃ!」「ほんとに今年で受かるぞ!」って感じだったんで、苦手な科目は結構がつつり。マンツーマンでも先生方が近いっていうのがあったんで、わからないことは何でも聞いて、ある意味苦手科目は特に頼りつきりって感じで。どこができないとかいうのも全部やってもらったりしていました。

数学は水物。生物にも力を入れた。

数学は啓寿先生と薄先生に習って、もともと得意だったのでそんなにはやってないんですけど、でもマンツーマンとかやっていると意外とできないってところもあって。前期は復習重要で、後期は予習が重要だなって薄先生も言ってたけどそうですね。予習して、授業で理解できるならそれでいいし、あとはまあ復習は必要などこだけって感じで。数学は基礎できないとどんなに上のことやっても絶対点数とれないっすね。それにはやっぱり前期の復習が必要で。ずっと基礎やっても問題ないと思うし。ある程度基礎ができて得意科目だったら予習中心ってのもあると思うし。ただ試験って水物で得意でも取れないときは取れないんで、数学を頼りにしたら受かんないなっていうのがあったから、まあ生物とかに力入れましたね。数学って特に水物で、(1)が解けなかったら全部解けないとかザラだし。しかも意外と、あとになって落ち着いて考えればできる問題がテストではできないとか数学はマジであるんで。1科目得意になるってのはいいんだけど、それが数学っていうのは心配ですね。当たればいいんですけど、水物すぎて。まあとびぬけてればいいんですけど、じゃなかったら理科二科目とか英語とか得意にしたかったですね。

代官山 MEDICAL に入って理科の成績は本当に伸びました。

理科は、特に化学は今年めっちゃくちゃ伸びましたね。もともと、浪人を謳歌してるんで自分の苦手な分野と

かは、なんとなくはつきりしてたんですよ。自分の苦手な部分とか得意な部分とかわかってたし、多浪しててそこから目を背けちゃう人とか受かんないと思いますよ。僕も2浪目まではそこわかってても向き合えなくて、他でフォローすればいいやって考えがどうしても出ちゃってたんで。で、それがやっぱり無理で。化学の中でも得意範囲・苦手範囲ってのがあって、干渉とか平衡とかは結構得意だったのに、理論のほかの単純な計算とかができないってのがあったんで、じぶんでその科目の中でここは苦手、ここは得意、っていうのがはつきりさせないと多浪生はきついっすね。浪人したばっかとか、現役とかだと、何にも知らないから最初っから全部聞けばいいけど、多浪生だと無駄に聞いちゃってる分、ああ聞いたことある聞いたことあるで流しちゃってて、ここは苦手なんだよなって意識だけでできなくなっちゃうんで、俺はちょっとでも苦手だなって思ってたとははそれだけでとたんに思考が止まっちゃうところがあって。それ英語の先生にも言われたんですけど、「越後谷君は苦手だと思っちゃうとできなくなっちゃうから、その意識を消さなきゃダメだよっ」って言われてて。で説明してもらってわかったら意外と簡単で、そしたら「えっ!? こんなに簡単だったの?」って感じでできるようになってって。全然苦手克服したわってなるとすらすらっていけちゃったりして。化学は有機無機とか傾向がこの問題だったらこれってパターンがあるし、有機無機は覚えるしかないし理論は同じ問題しかでないから、やっぱりやり方理解しないとって感じで。小林先生のところにずっといって、理論分野について教えていただきましたね。有機無機は覚えちゃえばいいと思うんで、有機はもともと得意だったし。なんか有機無機は覚えれるんですよ、英単語は覚えれないんだけど（笑）。生物もなんだかんだ苦手じゃなかったし、英単語覚えれなかったのも苦手意識でそうなっちゃってたのかもしれないです。今大学で英語のテスト終わったんですけど、まあ全部で6割取れば単位取れるんですけど、普通に7割くらいとれて。代官山 *MEDICAL* でのあの苦労の日々があったからこそ最近苦手意識なくなってきたかも。浪人もやばいけど、入っちゃったからには留年の方がもっとやばいんで。何浪でもできちゃうってわけじゃないけど、多浪しているとその甘さが出てきちゃって。まあ英語やんなくても、とか、奥底でまあ来年もあるし、みたいなあったんだと思うんですよ。今必死に留年かかってるからやばいってやったらできたし覚えてたんで、英語もそれと同じで結局やってなかっただけになって。

生物は元々得意だったけど、代官山 *MEDICAL* の Monthly Test で更に確実な得点源にしていけることができた。

生物は一番変動がないっていうか、元々得点源でしたね。もともと高校のときから生物は得意な方で。自然

に覚えちゃってたって感じで。生物は年数こなしてけば覚えちゃうってところがあったので、あんまり苦労しなかったですね。ただ、ちょくちょくぬけてる部分っていうのはあったんで、Monthly Test とか授業とかで抜けてたところがあると記憶に残るから、それで思い出したりとかはしてましたね。抜けてたところを埋めてただけって感じですかね。全くやってない場合は最初からいわれたことをやっていけばいいっていうか。先生方は出ること大事なことしか言わないし。緒方先生とか覚えるとこだけ覚えるってかんじで、このやり方でさえやってれば間違いないよ、って感じでシンプルに教えてくれるんで、緒方先生の言うことちゃんとぜんぶ覚えとけば大丈夫。中途半端にできるって場合だと、絶対穴があるんで、ちょっと得意だったり、得意でさらに伸ばしたいっていう人は意外と抜けてるところとか、自分が正しいって思ってるやり方が正しくなかったりするから、穴埋めですかね。夏に智一先生に、智一先生のやり方で遺伝を教えてもらってからは、遺伝の問題（その後の年間を通して）1問しか間違えてないんですよ。それ以外全部あってて。それぐらいできるようになったんで、そういう、今までだったらそんな完璧にできなかったから、自己流みたいにならないように注意しました。1回やったからと思い込んでタカをくくって油断してツメが甘くなりがちだったし。去年聞いたことあるみたいな感じの問題でも、いざやってみるとちゃんと覚えていなかったりするんですよ。

これだけはやっぱりいいたい（笑）。英語はやっぱり重要だった。

英語が重要、ってことは言っときたいですね。英語と数学が両方でできれば理科多少できなくても、つてことがあると思うんで、英語ができなかったゆえに、英語の大事さが余計わかるんで。帝京に入りたいから英語やんなくていいやってなると帝京受かんないと思いますよ。全部一生懸命やったうえで、結果的に、つてのはあると思いますけど。英語、苦手でもせめて平均までは押し上げてほしいですね。結果的に帝京受かったけど、帝京も外してれば全落ちだったかもしんないんで、俺の場合。1日目で受かってたんですけど、理科は3日ともできたから数学次第って感じで、1日目と3日目は数学できたし、3日目とかテキスト通りの問題だったんですけどね。結果的に1日目のほうが総合的にちょっとよかったみたいで。英語か数学のどっちかは超得意にしてほしいですね。どっちかは超得意にして、そうじゃないほうは平均までは押し上げる！みたいな。数学苦手な人は、薄先生とかおすすめでいい。あとは五十嵐先生、中村先生はテクニクじゃなくて、時間かかっててもこのやり方さえ知ってれば絶対問題とけるよっていう基礎の基礎をしてくれるから、数学苦手な人にはお勧めですね。この先生は得意な人が合いそう、とかよく観察してましたね。化学に関しては理論は節田先生の教え方がストーンと理解しやすくて、自分に合ってました。小林先生には有機無機中心に補

強してもらって。ほんとに化学一番伸びましたね。化学苦手でつまづく人も意外と多いから、克服できて伸びたのは大きかったですね。4月から夏前までの3か月で伸びましたもん。問題解けば解くだけ力になりますね。夏前の河合模試で偏差値77とかでしたもん。2浪目の夏が48とかだったし、せいぜい入塾時点で50前後だったと思うんですけど、そのあとはずっと70はキープして。自分の苦手なところをわかってたのが俺の強みでしたね。長谷川（代官山 *MEDICAL* 卒業生 日大医学部2年生）と桑野（代官山 *MEDICAL* 卒業生 聖マリアンナ医科大3年生）の存在は大きかったです。あの二人がいて、励ましてくれるし、あいつらの顔に泥を塗れないっていうのがあって。先生たちもいてくれて、自分の気持ちもあって、3浪目っていうのもあって、やばいっていうのはあったんですけど、長谷川と桑野の存在が一番大きくて。お前がちゃんとしないと、紹介した俺らが石井先生に申し訳が立たないってのはつきり言われて、頑張んなきゃって原動力になりましたね。

石井先生の授業で、苦手だった英語が生まれ変わった。

Monthly Test は、波がすごいあって、総合で200点越えて載ったの1回だけだったし。まあ、神谷さんとかに言ったら、おまえそれは英語が良かったからだろうって言われるんですけどね（笑）。英語以外3科目とも（ランキングに）載ってて、英語だけ20点とか。英語普通に取れたら載ってんだろって（笑）。3科目で160～170点は取れてたんで。敗因は英語ですね。英語は今まで生きてきた中で一番受験英語やれたんですけど、なかなか単語覚えられなくて。苦手の英語を救ってくれたのは石井先生の授業でした。自分の知らなかったことはもちろん聞けるし、やり方とかも今までとは全然違った教え方でした。覚え方とか、切り口とかが違って衝撃受けました。一個一個のもののとらえ方が今まで英語教えてくれた先生とは違っていて、動詞とか前置詞とかもここにきて初めて教わったやり方っていうか説明が結構ありました。栗原先生と朝岡先生と石井先生の授業は、文法の教え方から、今までの予備校と全く違いました。全然違った方向っていうか、いろんな先生が一般にしてくる説明とはまた違った説明をされて、そうすると引き込まれるっていうか、聞いちゃうんですね。同じ範囲だけどそれ知ってるよ、っていうのがなくて。もちろん俺の知ってるこれにつながるんだ、っていうのは最後にわかるんだけど、そこに至るまでの過程が違うから、知ってるつもりで使えないものが使えるようになるっていうか。知ってたけど脳の片隅に放置されてたものが、ああ、なんだこれ知ってるじゃん！ってぼんって出てきて、それで覚えたりとか。ああー、それか！みたいな。こういう説明でいままで教えてもらっただろうけど、これはこういう例があるからだめなんだよ、みたいなのも教えてくれて。こういう覚え方じゃダメだったんだみたいな気づかさ

れて。あと、石井先生の授業は一回やったことを何回も聞いてくれるじゃないですか。自分に質問されてなくても、いつあたるかわからないから、一緒に真剣に考えてました。しかも自分が分かるときはあてられないけど、わかるかわからないかみたいなきはあてられるんで。石井先生はそこわかってて、わかるだろうってやつじゃなくて、ここわかってなさそうだなってところを的確に突いてくれるんで。先生自身もそうおっしゃってましたし。逆に他人にあてられてるときも自分も当たるんじゃないかって恐怖もあって何回も何回も考えるんで、考えることが多いし、教え方も新鮮だから考えるし、頭をぐるぐる回転させて記憶を呼び起こしたりとか、頭使った授業でしたね。

過去問をやるのは最後の最後でした。

科目によりですけど、英語はほんとに直前。一番苦手で、一番進んでなかったから、過去問を解いても意味がないレベルだったんで。12月くらいから。そろそろやり始めるように石井先生にも言われて、相談してマンツーマンで先生に教わりながらやりました。それまではレギュラーのテキストと、栗原先生にやるように言われてたキャッチアップ英文法をやってました。あとは単語帳とかだけ。基本的な部分を何回も何回も繰り返しやってました。数学は、後期の授業で薄先生がすでに過去問を解かせてくれてました。後期は数学は予習中心にしてて、試験は初見の問題だから、テキストの問題も予習の段階で試験だと思って時間計って解いてました。後期はほとんど過去問って感じででしたね。化学は冬に入る前くらい。授業やマンツーでも少しずつ取り組んでたけど、本格的に始めたのは11月くらい。化学が一番伸びたけど、手ごたえが出たのは夏前くらい。節田先生の授業は斬新で面白かった。覚え方とか



も違ってて、たとも面白いし、例題をちよくちよく出してくれるから授業の中でも頭使って…ってできたし。マンツーは小林先生で、これは絶対覚えろって僕の弱いところを的確にアドバイスしてくれるんで、授業は楽しんで受けてましたね。授業中で理解してるから、あとでやっても覚えてるし、苦手なところはもちろんだけど、生活とか、根本的なものの覚え方とかまでアドバイスしてもらってたんで、そのとおりにやったり、焦らされたりで。やれやれ、って言ってくれる先生方だったんで。あと、先生方が自分のダメなところとか、こういう問題形式は得意だけど、逆にこういうのはダメ、とか苦手範囲はここ、っていうのをわかってくれたので、僕は先生を信頼してマンツーマンをフル活用でやってましたね。多浪生は正直マンツー取った方がいいのかなって僕は思いますね。自分一人とか集団の中でちゃんとやれる人だったら、まず多浪しないと思うんで。1浪とか現役生とかはまあいいと思うんだけど、やって受けて終わりみたいにならないようにしなきゃで、苦手な科目だったり、得意な科目でも穴を埋めてもらったりに活用できないと、マンツーうける意味がないから、ただ集団授業が自分一人だけになった、みたいにならないように気をつけてましたね。問題意識もって受けるっていうか。マンツーを受けてるってだけで安心しちゃだめで、マンツーの利点を理解して、質問バンバンして、自分の苦手なところだけをはっきりやってもらって、アグレッシブに。自分の性格を分かってくれる、自分に合う先生を見つけてほしいって感じで。

帝京受かったことを母がめっちゃ喜んでくれた。嬉しかった。

帝京受かって、親父はよくわかんないけど、母さんはすごい喜んでくれましたね。自分は全然現実感がなくて、来ても補欠かなって思ってたんですけど、正規で合格して驚いたくらいでした。第一報が実は親からで、帝京の人からの連絡を受けて親から確認するように言われて、確認したら受かってて。実際現実感がなかったですね。中学受験、高校受験ふくめてこうやって正規で行きたいところに合格したことってなかったし。自分がやってきたことを試験で信じられたことがあんまりなかったんで、今年はやることはやったと思うけどやっぱりできたことよりミスはどうしても見て気にしちゃうんで、この日はここミスっちゃった、この日はここ、って、ちよつとのミスで落ちちゃうっていうのが医学部だし、どうしてもそこ気にしちゃって。杏林とか埼玉も、1次だけならあと4点とか6点とかだったらしいし。そういうのもあったので、帝京もちよつとのミスのほうを気にしていたので、自信をもててなかったんで、ある意味期待してなかったし、電話してもどうせ自動音声で今回は残念ながら…みたいな流れなんだろうって思ってたけど、初めて合格の音声聞いたよ？みたいな感じで。合格してる人にはこんなこと言っ

てるんだ！初体験？みたいなのがあって、それから安堵感と嬉しさがジワジワときましたね。自分自身っていうよりは（今までお世話になった）人への想いっていうか。長谷川や桑野にも、なんとか受かったよって。親や親せきに今年で終われるよ、って報告できる、行くところが1つでも決まって、医師になるスタートに立てるってことに安心しましたね。

卒業生が語る

合格への軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

埼玉医科大

前期2次正規合格

マイペースの僕でも
見捨てないでくれた。
この2年間で自分の甘さを
克服できた。

埼玉医科大進学 佐川 慎太郎君(県立前橋高校)

埼玉医科大学はどんな感じ？

東京には結構遊びに来ます。今は学校の近くに住んでいます。出欠には厳しいですが、他校の医学部と交流が無いので比較ができないですね。先輩がすごく優しいし、先生方も面倒見がいいです。遅刻しただけでも理由は何なの？とか、後で呼ばれることもあります。1回寝坊しましたけど(笑)。六鹿君(藤田保健衛生大医学部進学)とか仲良かった人たちともいま連絡あんまりとってないですね。埼玉の友達がほとんどです。留年しないようにっていうのが最大の心配ですけど、今のところ大丈夫そうです。埼玉は遊びに行くところないからで、勉強するしかないんで、いい環境ですね。先輩たちも優しいし、過去の試験問題を回してくれたり。

「物理は感じる」の意味が分かったとき、物理が伸びた

好きだった授業は三宅先生の授業で、ただ問題を解かせるんじゃないくて、物理をしっかりと考えさせる授業で、嫌いだった物理もできるようになりました。先生の「感じる」も1年目はわかんなかったけど、2年目になってやっとわかるようになりました。物理現象っていうのはそうなるっていうのが決まっていて、今はこういう公式を使うのかなっていうのが「感じる」ってことなんだと思います。2年かかったけど、物理は伸びましたね。でも2年目は一回油断して夏休み入るとき落ちて、さすがに焦りました。気持ちを入れ替えてしっかりやろうと頑張りました。A1からM3にクラスになって、「M来たな」って。「俺は上がったぞ！」みたいな、勝ち誇ってそのあと油断しちゃいましたね(笑)。他にマンツーマンとってた先生は、薄先生と朝岡先生と節田先生で、オールスターですね。薄先生のいいところは、自分に合わせて自分に合った問題を持ってきてくれて、わかんなかったところを解説してくれました。朝岡先生は、単語のプリントも作ってもらったし、ゆるい感じだったけど、丁寧にやってくれました。休み時間も答え合わせやってもらったり、授業以外でもお世話になりました。節田先生のいいところは、解説も丁寧だし、2年間も教わってたので、やり方も先生のやり方になってたし。石井先生の授業では、いろんなことを話してもらって、ためになりました。勉強のやり方も話してもらったし、勉強への態度も話してもらったし。

今頑張っている人たち！単語は早めに終わらせて！

マンツーマンもちょびちょびとってました。テキストの復習は1学期のものだけじゃなく、前の年のテキストも復習したりしてました。英単語はもっと早めに始めればよかったなって思います。始めたの2学期入ってからなんで。使ってたのはシス単でした。最後まで苦戦して、たぶん終わらなかったと思います。その詰めの甘さが、ぎりぎりまで待つ羽目になったんだと思うし。

なので今頑張ってる人たちには「単語は早めにやりましょう」と。でもシャキョウ(写経)は免れました(笑)。

勉強漬けの一人暮らしの始まり

親に言われてここに入りました。たぶん新聞から見つけて。他とは迷わなかったです。近くのL教育センターに姉が通ってて、そこはやめた方がいいって言われて。姉は5つ上で新潟の日本歯科です。実際入ってみて、住んできると学校が近かったんでよかったです。朝9時に来て、授業やって、21:30までいて、食事は全部コンビニでした。朝は一人で、昼夜は友達と食べてました。夜帰ってお風呂入って寝る、みたいな。テキストはたまにやる気起きた時は開く感じでした。日曜日もちろん来てました。18:00に終って、たまに外で勉強して、21:30くらいに帰る、みたいな。家事は日曜とか時間を見つけてやってました。あまり親の力に頼ったりとかはしてなかったです。たまに来て、きれいになってることとかありましたけど。

愛知から始めていろいろ受けた。さすがに6連ちゃんはキツかった。

堅実に受かるようにと思って、いろんなところをたくさん受けました。愛知からスタートして岩手・金沢・杏林・北里・埼玉も受けました。一次受かったのが金沢で、埼玉は後期受かりました。手ごたえは数学がイマイチでした。そのあと東邦・東医・日大・昭和・東海は1日だけ・聖マ受けて、その間に金沢に二次も受けて。とりあえず行きたいところを決めて、他は自分の実力を考えて今年で決められるようにと思って決めました。さすがに6連ちゃんはきつかったです。朝からフーって、疲れ切ってました。入試は一人で行ってました。金沢1つ持ってたんで多少は楽でしたけど、最後の方はつらかったですね。埼玉後期は結構ぎりぎりで繰り上がりました。3/25とか。日頃の行いかな(笑)。2月・3月は、周りのみんな結果が出てきて焦りました。埼玉後期の手ごたえはそこそこで、悪くはないだろうと思ってました。面接は、すごい高校の時の総合の時間のこととか聞かれて、イマイチ覚えてませんでした。志望理由とかは聞かれなかったです。メインは高校の話でした。多浪はいないですね、3浪までで。再受験は結構います。1つ上の学年で、最高30才の人はいますけど今年は再受験の人で23〜27才くらいですかね。

全科目 MT ランキングに載ることを目標に！

ランキングに載らないとまずいと思ってましたが、ライバルは特にいませんでした。目標点とかは特になかったですけど、とにかく全教科ランキングに載ることを目標にしていました。人と比べて負けたら嫌だなというよりは自分の指標を大事にしました。マンツーマンもってくれてる先生たちは、ランキングチェックして「もっとできただろ」とか声かけてくれたんで。復習は間違った問題だけ解き直したりしてました。終わった後に解

き直してみると、もっとできたなあ、って思います。杏林の時、解き終わる瞬間に「ああ、これ！」って問題がありました。時間が短くて、あと少しだったのにつてのがありました。埼玉の国語はできてるのかわかんなかったです。埼玉受かったときは、周りもすごく喜んでくれて。2年間いろんな人に支えられました。

一人で無駄な努力をしていた。先生たちのおかげです。

自分ではすごいやったつもりだったけど、実際そうでもなかったなって。勉強時間的には1年目の方が長かったけど、方向性が違ったり、マンツーマンもそこまで取ってなかったし。2年目は全科目マンツーマンとって、先生に任せて、効率よくやってもらいました。1年目は自分でやっちゃって、無駄な努力が多かったですね。先生たちのおかげです。一番お世話になったのは三宅先生です。物理はゼロからのスタートだったんで。休み時間の質問は、マンツーマンの内容だったらマンツーマンの先生にして、授業の質問は授業の先生にしてみました。先生たちへの質問はしにくいつてことはなかったです。捕まえられないときはありましたけど。苦手な先生もいませんでした。ただ、振り返ると石井先生の言うことを聞けばもっと伸びたかも…って思う。夏はけっこう厳しめに言われました。そこで気合い入れないと思ったのに結局入らなくて。その時石井先生のいうこと聞いてれば、もっと伸びたのかも。



卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部

2次合格

東海大医学部

2次合格

日大は薄先生の
まんまだったんですよ。
的中ですよ、本当に。
マジで的中ですよ。

日本大医学部進学 中野 樹莉亜さん(都立日比谷高校)

入学時期と当時の思い出

高2の9月くらいに入りました。今は亀ちゃんと仲がいいですけど、最初、私は英語が出来ないので、英語下のクラスに入れてもらっていました。だから生物しか一緒になかったんですね。なので、接点はなくて。でも、初回の生物の授業で筆箱全部忘れたんですよ。それで今まで話したことない亀ちゃんに、「すいません、筆記用具かしてもらえますか？」って言ったのが、亀ちゃん的に衝撃だったみたいです。

わかりやすい授業は、復習する気になれる授業

印象的だった授業は、数学があまりにできなかった私にとって、薄先生の数学は、かなり大きかった。びっくりするくらい数学は出来なかった、っていうかやらなかった。高校の授業も全部寝てました。。。 (笑) 薄先生がずっと言っていたのは、高3の頭でコンビネーションの計算のやり方がわからない。 ${}_5C_3$ と言われて、どうやって計算すればいいのかわかっていわれて「なにこれ」っていったのが、衝撃的だったらしくて。だけど、とりあえず薄先生の授業は本当に分かりやすいから、復習する気にもなるというか。復習していて、「あ、そうだそうだ」ってやれる。だから、薄先生に言われたことだけをやっていました。最後、本科生のベーシックのテキストを授業外でやって宿題が出て、それが相当しんどかった。結構時間掛かっちゃって大変だったけど、授業じゃなくて、1冊自分で終わらせたっていうのが自信になった。絶対追いつかれない、期限までに終わらせたい、薄先生に言われたことは全部やりたい、と思ってやった。数学は薄先生が基本的なこと、典先生が難しいことをやっていました。典先生の最後の授業とかは本当に難しくて亀ちゃんとぼん(帝京大学医学部1年 新保雅大)しかわからなかった。ぼんは数学ヤバイ。

雪に苦戦した日大、意外と出来た東海

日大の1次試験の日はえげつないくらい雪が降って。私、外側の教室で、教室出たらすぐ雪。建物の中の教室じゃなかったの、雪の中を歩いてトイレに行くんです。それがすごい寒くて。私が受かって、その次の合格の人まで60人くらい空いていて、私と同じ教室で私より後ろの人は全員落ちていて、もうホント医学部恐ろしいと思いました。東海も実は受かっていて、先に日大の合格通知が来ていたので、母が補欠辞退の電話をかけてくれていて、私は入学式後に実は受かっていたと知りました。東海は、化学が難しかったんで、「化学選んで失敗したかな～」と思っていたんですけど、そこそこ出来ていたみたいで。英語は簡単だったんで、多分満点とっても大した偏差値にならないと思うんですけど。難しいところがそこそこ出来たから受かったのだと思います。受験順が4日連続のうちの3日目だったので、結構大変でした。

ファイナル2周と石井先生の授業

私もファイナルはやりました。私は文法をやっていない、そうしたら亀ちゃんが「石井先生にファイナルお薦めされた」って言っていて、基礎と発展の2種類あって、基礎で良いつて言っていたので、亀ちゃんが買ったのを見て、「私もそれやる！」って。やり始める時期が遅かったの、あれは冬休みで2周やりました。でも私、ネクステは全くやってないです。文法はファイナルしかやってない。英語は石井先生の構文 α をコピーして、訳とかポイントを書いたノートを作って…。あとは本当に石井先生の授業と、直前に過去問をやっただけ。英語はそんなに力いれてなかったの。あんまり具体的に覚えてないですけど、石井先生のお話を聞いたたびにいちいちビビってました。「ヤバいっ！！」て。石井先生の授業が終わった後の勉強意欲が、メッチャ増して、「これはやらなきゃ！」ってなってる。意識は相当高まりました。予習は α とかをかなり一生懸命やろうとして、文としっかり作っていました。でも、たまにすごく難しい問題も入っていて分かんなくて、それにメッチャ時間かけていました。γも結構読んでいて、内容を覚えるくらいまで読んでいたものもありました。橋本さんの言っていた試験前にテキストを読むことを石井先生もお勧めしていて、「そのテキストなら私も貰った」と思ってやりました。メッチャ書き込んであったので、受験時、私は周りに見せつつ「私はこんなにやったんだ！」ってアピールしていました。「ビビれ！」みたいな。倍率高いからあまり意味ないけど、とりあえず周りは落とそうと。あとは制服を着ていつていた。「現役です！」みたいな。「だからなに？」って感じですけど。

「医学部受験とはこういうことなのか！」と初めて理解した

生物の現役授業は4人で、考察の練習をしていて、私は考察よりもそもそも知識がなかったから、緒方先生からも「考察は大丈夫だから、とにかく知識」って言われていたから、授業はいい考え勉強になったし、やっていてすごく楽しくて、でもその傍ら、生物は基礎の問題集をやって、分かんないところがあったら、**代官山 MEDICAL**でもらった図説にもどって、書き込みしながら、覚えていて。図説みながら知識増やして。あの図説はほんっといい。何がどこに書いてあるか覚えるくらい見たし。それでボロボロになるじゃないですか。それも、試験会場で「こんなボロボロになるまでやりました！」って見せてました。私は自信だけは結構なぜかあって。慈恵は難しいかもしれないけど、他は全部受かるぐらいの気持ちで。今考えると、どっからその自信が来ているんだと思いますけど(笑)。やっぱり受験を1回も経験していないから、何も知らない

いからこそその自信ですかね。

本科生と一緒に授業をしたこともあったんですけど、一番上のクラスの人とか、「え？なんでこんなに心配しているの大丈夫でしょ。」とか思っていたから。舐めてたので、受験に対しては怖くなかったんですけど、最初岩手に落ちて、それが衝撃で、でもそれは何かの間違いだと思って、自信は崩れなかったんですけど、北里落ちた段階で、「これはまずい」と思って、「医学部受験とはこういうことなのか！」と思って、それから焦りました。

楽しかった文化祭と、その代償そりゃ成績落ちますよ

涙の日々ですよ。泣いていました、ずっと（笑）節田先生とかに話聞いてもらっていました。１０月６日にマンスリーがあって、その試験結果で泣いたんですよ。私、９月２０日まで文化祭があって、文化祭の準備、劇なんですけど。劇の中で役もやり、衣装係もやり、引退ライブのオーディションもありで。

特に引退ライブのオーディションは盛り上がる後夜祭でできるのと、ほとんど人が見に来ない星陵祭でやるのでは、それはもう天と地の差なので、それに賭けてたんですよ。そのために、夏休みはその衣装作って、セリフ覚えて、ドラム叩いて、勉強みたいな。

そりゃ、成績落ちますよ。その時にナリちゃんがメツチャ成績が上がったんですよ。

それで、「マ、マジかっ！？」てなって。亀ちゃんはすごいってわかっていたんですけど、長岡が入った時は脅威だと思ってなかったんで、だから、気づいたら長岡がメツチャ頭良くなってたんで、びっくりしました。長岡と亀ちゃんが存在がかなり大きかったです。

長岡って覚えるのメツチャ早いんで、１回言われたらすぐ覚えるんですよ。私はその能力はないけど、「覚えているから、成績が上がる」、「覚えることが大事」ってわかったので、覚えるようにしました。

化学も理論とか覚える教科なんだってそこで思いました。化学は覚えるものじゃないと思っていたんですけど、そこは諦めて覚えるようにしました。

MTは気づいたら次のMTになるから、授業の予習やら復習やらでいっぱいいっぱいだったんで、いつのまにか来ているという感じ。

今月こそはちゃんと復習しようって思うんですけど、もう無理みたいな。できないみたいになって。受けっぱみたいな最低な感じでした。

受験して、できなくて反省する。亀ちゃんすごいな、どうして敵わないんだって思って。ランキングが張り出されるので、モチベーションにはすごくなりました。でもうまい使い方はできてなかったですね。

朝の１時間は、夜の２時間に匹敵する！？

私は学校の数学は授業中も薄先生からもらったベシツクのテキストに費やしてましたけど、他はわりと学校の授業もちゃんときいていて、化学も演習になっ

てからは先生が国立とかから問題を引っ張ってきてくれたので、やって損は無かったのやってました。ただ、こっちも大変だから。**代官山 MEDICAL**の授業終わって、帰ってから絶対やれないんですよ。

亀ちゃんはやっていたらしいんですけど。その差ですね、きっと。私は夜は勉強できないので、朝、学校始まる前１時間早くいって、学校の自習室でバーっとやって、あとは、学校の休み時間あるんですけど、２限と３限の休み時間にお弁当先に全部たべちゃって、昼休みが始まると同時に部屋抜けて、自習室いってみたい。

学校、クラスに友達がいなくなります。本当に。それぐらい私は切羽詰まってたから。昼休みは１番に自習室にいて、だんだん人も増えてくるんですけど、それでもずっと勉強して、そこから授業いって、終わった瞬間、**代官山 MEDICAL**に来てって。本当に友達がどんどん（笑）１年の時は遊んでたから、友達けっこういるけど、３年のクラスにほとんど友達がいなかった状態でした。時間を大事に、起きてられる時間を大事に。夜はちゃんと寝ちゃったんで。３年はいつから、朝はずっと続けてました。１学期は昼は友達とたべてて。夏にはいったら、比較的朝にバンドの練習を入れて、朝ない日はこっちきてたんですけど、バンドの練習の日はそのまま学校にいて、衣装作って（笑）で、劇の練習が始まったら参加して、その後代官山にくる。朝代官山きて、途中で抜けて、夜始まる授業にもどってくとか。渋谷と永田町だったから割と近くて、でもかなりきつかったんですけど、そんなかんじにやって。で、あの結果（笑）

それで、おっとなって昼も。国立重視の学校だから、センター対策が始まるんですけど、センターなんかやってる場合ではないと。申込みはさせられましたが、結局いかなかったんで。センターの日は。まあ、行って雰囲気味わっても良かったんですけど。センター対策はしまってから学校にほとんど行ってないです。ほとんど**代官山 MEDICAL**にいました。浪人生と同じ生活をしていました。

センター対策も一応出席はとるんですけど、本当にいってなかった。ずっと２号館に（笑）

朝、ヤギに” サクラ！ショコラ！”って挨拶して（笑）２号館に登校してました。

朝、ほんとにいいですよ。夜の２時間と朝の１時間は同じくらいだと思います！もっとかもしれない私の場合。みんなやってない時にやっているという優越感もあるし（笑）

ある程度力が付いたら“運”と“相性”

化学はテキスト。全部を解きなおすのは難しかったから、１つのテキストのここをやった方がいいかなっていうのを、自分で前期のテキストから１章につき３問ずつくらい選んで、それを手帳に書いて、終わったらピツピツピツって消していくのを夏にやった。

私は逆に、自分は部活やって、劇やって、衣装やって

るけれど、そこそこ勉強は出来ているみたい。勉強だけやればもっとできるでしょみたいな自信になって、当日怖くなかったわけ。

ドラムスティックって鞆に入らないんですよ、だから見えちゃうなって思って。

代官山 MEDICALでは、本当は鞆に入れたいなって思ってたんですけど、また部活か！って怒られちゃうじゃないですか（笑）

今だから、いうけど「やめとけ、やめとけ」って思うんですけど。最後は、ある程度実力ついたら運というか、相性もあると思う。日大は薄先生のまんまだったんですよ。的中ですよ、本当に。マジで的中ですよ。ライブニツツ定数とか推すんですけど、それとか。夏の単科的中だったんですよ。高３は必修の授業だったんですけど、あれはマジ必修にすべき。化学は１２月までのMTでは結果が出せなかったんですが、それ以降にだいぶ得意になって。私、日医の時に亀ちゃんが女子医の時に死ぬ気でやったって聞いて、それで私も終わった後頭がグラグラするくらい真剣にやったんですね。結果は残念だったんですけど、「そこまでやってダメなら」って思ったところもあってスツキリしたんですよ。それが終わった後、慈恵と日大だったんですけど、結構気が抜けちゃって。

日大も最後だったんで、疲れちゃったなあと思いながら受験してて。あまり、気張りすぎもよくないかなって。

ワンチャン狙って２次へ

私は、医学部は日医しか知らなくて、行ったこともなくて。それで、面接の前にどこを受験したいかのアンケートに日医しか書いてなかったんですよ。そうしたら石井先生に「おまえ日医しか受けないのか」って言われて（笑）

そうじゃないんですけど、本当にわからなくて。それで、日医以外はすべて石井先生に１から組んでもらいました。出願の時に昭和の２次と日大の１時次がかぶってたんですね。それで、無駄な自信があったので、「申し訳ないけど日大は受験しないな～、６万円払ってもらってごめんね。」とか言ってたんですよ。

それが、結果日大に進学したんで、重なってて勿体ないなって思うかもしれないんですけど、１次そんなに受からないから、出願したほうがいいです。それと、１次受かったら、ワンチャンねらって２次受けにいったほうがいいです。



卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

岩手医科大医学部

2次合格

私立の過去問やってみると、
米澤先生とやったのと、
あっ、おんなじ、みたいな。

岩手医科大医学部進学 八鍬 佑子さん(山形東高校)

1年目と違って2年目は予習中心で勉強を進めた。

1年目はあまりにも何もわからなすぎて、ずっと最後まで出てくる問題が初めてっていう。わかんない、わかんないのまま受験を迎えた。それでも2年目は気が付いたら大体全部見たことあるやつになって。自分でようやくそれでも成長しているのが分かりました。1浪目の終わった時に、問題集全部完成してるやつ一個もなく不安だったんで化学は代官山 MEDICAL でもらったサブ教材の重要問題集だけずっとやって、数学は薄先生の授業のテキストにのってる問題だけやって、後はそれぞれの学期の代官山 MEDICAL のテキストだけ。予習中心で。薄先生には1年目からとてもお世話になっていて、授業外でもよく質問してました。ごはんを食べているときでも対応してくれて、ありがたかったです。

化学で好きだった先生は米澤先生。1度教えていただいたら、もうはまってしまって。米澤先生と一つの単元やったらその単元で不安になることはないって感じ。それ出てきたら全部出来たって感じになれるので。類題をいろんなところの過去問からドサッとくれて、その類題さえ解けば力がついてきた感じでした。米澤先生に習い始めたのが遅かったんで、全部の単元はできなかったんですけど、大体3分の1くらいやった単元はできて、その授業でやった授業はそのあとどんな問題解いても間違えることはなくて、だからもっと早く米澤先生のマンツーマンをとれば絶対的だったのかなって。国公立大から類題引っぱってもらってやったので、いざ私立の過去問やってみると、米澤先生と解いた分野と、あっおんなじ、みたいな。冬休みだけだったんですけど衝撃的でした。

自分の勉強は、特に2学期はできてわかんないところに印つけて、あんま復習はしないで分からない所だけでもう一回。間違ったらもう一回また忘れたところにやるっていう。予習とかで余裕なかったんで、それ以外はやってないです。なんか結構、2年目はどの授業も。結構全部同じくらい大事にしました。1年目はわからなすぎたので、お気に入りの先生は頑張ろうみたいな感じだったけれど。私切り貼り作業が結構好きで、気分転換に結構今までやったプリントとか過去問とかを全部分野別にファイリングしてて、単元ごとに対応できるように作って結局10センチくらいのファイルがいっぱいになるくらいに厚くなった。それを過去問やったときとかに、ここの単元できなかったってぴって引っ張って出してきて。全部一瞬で授業の問題もやったノートも見れて息抜きにもなるし使いたくなる。自分で授業の時にとったノートだけだと見にくかったから、自分で全部単元に分けた。でも結構時間かかるから、ほんとにやりたくない時に息抜きにべたべたって。

私の場合、英語がほんとに苦手だったんでずっと1年目も2年目も石井先生の授業の板書を自分ででっかいノートに全部板書写して書き溜めたやつを受験会場に持って行って、直前にそれだけ見て、後は過去問もみ

ずにそれだけやって。すごく書き込みをしてあったので、こんなにやったんだぞ。という感じで。石井先生の長文は何回も読み直していたので、直前で不安になることもなくて、会場でもお守りみたいなかんじ。

でも過去問解いているときは最後まで英語が出来た自信がなくて。英語はどの問題解いても半分もいなくて、だから英語が簡単な岩手になって。本番の出来としては岩手は英語は普通くらいで他の科目は、全部失敗。数学も化学も全然できなくて、岩手絶対受かんないと思ってた。結局英語だったのかな。

テストはあまり気にしないようにしていた。

私、なんか気にしすぎる性格みたいなんです。1浪目はマンスリーの結果に一喜一憂して。マンスリーつて月に一回なのに2週間くらい前になるとまた焦ってペース乱されてたんで、2浪目は、マンスリーは、来たらじゃあ受けるみたいな。全く対策しないようにして。もし良い順位だったら、あ、やったあ～儲けものみたいな。悪かったらまあ一応復習はするけど。ほんとに1年目は振り回されたから、2年目は全く。周りに合わせてリアクションはしてたけど、実際なんのダメージはなく、あ今回ためだったーみたいな感じだった。ウィークリーのために勉強しなくて、ランキングが貼り出されて載らなくなったら我が道を行き過ぎたなみたいな感じで、ちょっと復習しようかなみたいな。自分の勉強の指針として使ってた。載ったらやったなって感じで。とりあえずウィークリーもランキングから落ちないくらいに普通くらいできた感じ。

友達との付き合い方は距離感を大切にした。

私は結構途中まで、夏終わるくらいまで結構グループで食べてて、結構食べるの遅い子とかいて、友達に合わせて自分の勉強の時間が削られてしまうのが、だんだんストレスになってきて、それで一緒にご飯食べなくなっただけなんです。最後のほうは誰とも話さずってなっただけなんですけど、逆にそれがよかったかなって。最初はストレスで胃とか痛くて全く食べれない状態だったんで、それを理由に一緒に食べれないっていつて抜けて一人で食べてたんでそれが私にはあったかも。友達と話すといろんな情報入ってくるのもいいけどそれが正しいとは限らないし、振り回されやすいんで。友達に聞くよりは先生や事務の人に正確な情報を聞いた方が早いしいいなって。最後の3か月ほんとに、先生に質問するくらいの会話しかしてなかったけどそれがよかった。全く言葉を発しない日も結構あった。言われないと話さない、けどそれが私はよかった。変なイライラもなく自分のペースでできた。今年、代官山 MEDICAL から岩手に8人入ったんですが、その人たちとは結構楽しくやっています(笑)。

卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

岩手医科大医学部

2次合格

石井先生との思い出は、
なんか東邦の過去問の
ホットスプリング
“hot spring” (笑)。

岩手医科大医学部進学 王 泰士君(城北高校)

代官山 MEDICAL に来たきっかけ

なんかどこにしようかなーみたいな。現役の時普通に医学部全部ぼーんって落ちて、ええ、どうしようみたいな。お母さんが評判を聞いて、代官山いいんじゃないって。まあいいかあみたいな。他にも医学部予備校っていろいろあるけど、ここでいいんじゃないみたいなこと言われて。わかったって。それで説明会にきて、石井先生のお話を聞いて、すぐ決めましたね。

好きだった授業は？

誰だろう、英語は朝岡先生が好きだった。ううん。数学はあれはもう地獄でしたね、わかんなさすぎてもう。とにかく数学は苦手で。でもなんかどの先生もめっちゃ丁寧に説明してくれるんですけどそれに必死に食らいついてく感じで。好きっていうよりは、必死という感じです(笑) あとは、緒方先生とかかな、生物の。なんかまとめ方がすごい上手ですごいコンパクトにまとめてくれて、覚えればいここだけ教えてくれて、それを单元ごとにここの单元わかんないですっていうと、じゃあそれこの時間で説明するからって、ばーってやって。大体それで全部だからここ勉強しとけばできるみたいな。だから勉強しやすかったです。

あと、石井先生には英語の事だけでなく、勉強全体のこともアドバイスをもらってました。僕一時期数学ができなさすぎて数学ばかり勉強してて、そしたらなんか英語もうちょっと得意だったのが落ちてきて、でも数学もあんま上がらないみたいになってきて。やべえってなって、それで石井先生に相談して、そしたら毎日ちゃんと4教科をまんべんなくやらなきゃダメだよって言われてああそれだなんて。で、ちゃんと4教科をまんべんなくやらなきゃようになってからちょっと伸びてきたかなあみたいな。しかも英語だけでなく、数学も。それまでは、数学ばっかやっててって感じだったんですけど。あと、石井先生との思い出は、なんか東邦の過去問のホットスプリング “hot spring” (笑)。英語は得意だったはずなんですけど、授業中にホットスプリングの意味を聞かれて、なんかわかんなくて「暖かい春」って答えちゃって。周りみんな爆笑で……。いや、これ全然得意じゃないですね。でなんかもうそれ卒業するまでずっとその話をされることがありましたね。でもこれで、英語は得意だから大丈夫みたいな驕りはなくなりましたね(笑) はい覚えましたが、みたいな。もう覚えてたんで勘弁してください(笑) この話本当に恥ずかしい思い出なんです(笑)

テストはモチベーション管理に役に立った！

僕は最初のマンスリーはすっげえ適当、適当じゃないんですけどばーっと受けて、英語だけかろうじてランキングの一番下で載ってて、あつやべえってなって。その後の Monthly Test で、英語は順調に上がってたんですけど、数学と化学が偏差値32スタートくらいだったんで当然だけど、全くランキングに載らなくて。それどころか、平均点にも全然追いついてなくてやべえ

みたいになって。それで、まずは平均点は取りたいと思って。目標を分かりやすくするために、マンスリー、一回一回のマンスリーごとに自分で自分の点数と平均点書いて、どのくらいその差が詰められたかを書いてそれをモチベーションにしました。今回このくらい詰められたから次はもうちょっと平均に近づけるようにって。結局1回もランキングには載らなかったですね数学と化学は。

Weekly Test はそうだなあ、ウィークリーも最初の頃はランキングとは程遠い点数だったんですけど。例えば数学で、授業でやった同じ問題が出るのがあって。やっべわかんねえって。これは復習不足で、絶対怒られるやつだと思って、その後復習を必死にやってたんですけど。でも、最後の方はなんか結構あつ、いけるみたいな。生物とかも満点取って。一回だけ総合で2位になったんですよ。それでよっしゃあみたいな。まあそっからそんな上位には載ってないんですけど。それで、まあ下の方ではなんとか載りつづけるようになって。いつのまにか、なんとなく全範囲網羅できてくるかなあみたいな感じで、自分の実力が上がってるのを感じることが出来て良かったですね。特にマンスリーは全然数学と化学は載らなかったの、Weekly でランキングに載ってやったところはちゃんとできるようになってるのを確認できて、載らなかった時はやってなかったってヤベーってなってちょうどよかったというか、ランキングに載れるのでうれしかったですね。

勉強法について

やっぱり一番力入れてたのは数学ですかね、なんか夜間学習で平野先生にもらったプリントに加えて、類題をやった方がいい問題をピックアップしてもらって類題のプリントも別でもらってました。プリントをホットキスとかでとめて、ばちってとめてもらって「じゃあこれやってきて」みたいな、「はい。」って。よく夜間学習の間に、もらってました。量もめっちゃあつて。例えば積分とかやって持ってた、「ここわかんないんですけど」って言って、分からないことを潰すようにしてました。もちろん「ここやったじゃん」って言われることもありましたが。たしかに授業中だと分かったつもりになってることってあるんですよ。だから「復習したら分かってなかったの、すいませんっ」って謝りつつ教えてもらってました。先生も分かってないときはとことん質問に答えてくれて、ありがたかったです。

数学は、夏からの Basic のテキストと2学期の Basic のテキストを完璧にしろって言われて、それを2周か3周くらいやっても、絶対間違える問題があるからそれをまた4回目5回目ってやって。数学はそれでもう代官山 MEDICAL のテキストしか使ってなかったです完全に。

生物は、これぐらいの分厚いバインダーみたいなのを作って单元ごとにタイトルを書いて授業で出てきて、知らなかったら書きたしてって、自分でそうやって知

識を増やしました。化学は節田先生に聞いてテキストやれって言われて。化学もテキストだけ使ってやってみました。夏期になる時にテキストを Standard から Basic にテキストを下げてもらって、夏期から伸びてきて、自力で予習もできるようになった感じかな。最初はテキストが下がるのはちょっと悔しかったんですけど、自分の適性のテキストは Basic だったんだなって分かって。それで、2 学期のテキストは予習でめっちゃがんばって、それから 1 学期のテキスト (Standard) をもう一回やってみたら、なんか途中までできたんだけど、こっからできなかったみたいなのをピックアップして復習しました。



今先輩として 1 年過ごしてみて、反省を踏まえアドバイス

わかんないところはなんか自分で考えすぎないで、僕はすぐ先生に質問行っていました。道筋が見えないみたいな時もすぐ先生に聞きに行って、それが一番早いかなって思っていました。あとは代官山 MEDICAL に来るまでは予習って概念が僕の中にはなくて、予習とかいらなみたいな感じだったんですけど。でも予習しないと数学とか絶対授業聞いても意味ないなみたいな感じになっちゃって、思うようになりました。

この 1 年で、本当に勉強に対する考え方が変わったと思います。だからこそ 1 年で医学部に受かったんだと思います。

卒業生が語る

合格への軌跡 2014 年

WAY TO SUCCESS

日本医科大	2次合格
東京医科大	2次正規合格
東邦大医学部	2次正規合格

浪人でやっと
英語が伸びた

日本医科大進学 寺門 正雄君(城北高校)

日本医科大に進学して。

代官山 MEDICAL から今年進学した他の2人（石橋くん、亀山さん）とはクラスが違うのであまり会えないんですが、仲はいいです。前半と後半で分かれてるクラスに分かれていて、僕は後半なので。縦割りになっているアドバイザーが毛利先輩（**代官山 MEDICAL** 卒の3年生）と一緒に先生になりました。とてもいい班でよかったです。日医は英語のしゃべる方に力をいれててヤバいっすよ。全然何もできない（笑）

入塾は高2の時

高2の夏休みに英語だけとって、2学期から物理や数学や化学もとり始めました。高2の時は数学だけ別の塾にいった。でも学校からの移動とかを考えて、**代官山 MEDICAL** にしようかなと思って。実際授業を受けてみて、先生がよかったからこっちでって決めました。物理は**代官山 MEDICAL** の先生に教えてもらったら、「物理って簡単だなー」って思えるようになって。好きになって、物理から成績が伸びました。今まで結構ぶつ切りで覚えてたものが、ガツてつながって、ああ、そういうことかってなって。簡単だなって。でも、最初はそれしか点数がとれてなかった（笑）

浪人でやっと英語が伸びた

現役のときは英語が断然だれより負けてたんで、そりゃ落ちるなって。あと門屋君（日本医科大学2年）には有機の構造決定で結局一度も勝てなかった。互いに競ってたんだけど、勝てず、悔しい（笑）浪人生になって英語がだめだったって反省して、結構読んだ。読めば慣れるだろうと思って、テキストの長い長文をかなり読み込んだ。あと、石井先生の授業でたまに昭和の過去問とかやるじゃないですか。それとか、何回も何回も繰り返して解きなおして何回も読み返した。2学期は若干読めるようになったので、テキストの予習。復習はあんまりやってなかったかもしれない。1学期は復習型で2学期は予習型で新しいのをどんどん読んでいく。他の科目はほぼ最初から予習型。予習して、授業で解説聞いて、必要なところだけ復習。俺の場合は、単語学習法をもうちょっと早く見つけとけばよかったのが反省です。それくらい。

一年間試行錯誤の連続だった。

物理は先生たちから問題をよくもらってました。難しいのを。数学はテキストと過去問だけです。とりあえずテキストは書き込んで、使ってました。授業で合ってる、合っていないをみて、あってなかったらなんでだろうと考える。1回解いたら、解説聞いても、本当に目から鱗だった以外の問題はそんなに復習はしなかった。その代り、過去問でいっぱい問題解いてました。俺は難しくても粘っちゃう人だったんで。角田君（昭和大学医学部進学）と東大後期の物理・化学・数学を年末にやりましたね。7時間くらいみっちり。好きだった授業は、やっぱり物理。テキストだけじゃ

なくて、その次に繋がるような話をしてくれるから好きだった。その問題だけじゃなくて、そこから発展させていく。むしろそっちがメインみたいになってて（笑）数学とかは淡々と受けてました。好き嫌いもなく。楽しかったから。印象的だった授業は、数学の典先生の授業。高橋典先生の授業で論理を何段か飛躍させてことがあって、1度ガチで分からなかったことがあったんですね。基本的に数学は得意だったんで、そんなことないんですけど。その後説明があって、良く分かったんですけど、これは一瞬じゃ分からないなあと思って。でも、後から若干パターンみたいになっていて、似た問題をやっていけば分かるのかもってなって。そういうところまで身に付けないといけないってそこで思いましたね。化学は、節田先生にわけのわからない質問ばっかしてました（笑）授業をストップさせるような。液体とは何かみたいな。固体と液体の差はなんなんだとか、そんなことも聞いてました。授業中も結構質問してた。だいたい、若干意識してたのは、1回の授業で1回は気になることがあったら聞こうかなって思ってた。英語は苦手だったんで、淡々と。一番淡々と（笑）予習よりは、復習を中心に。現役生の時から比べると大幅に伸びましたが、医学部だと最低ラインを越えたかなってところ（笑）全部の先生に「お前は英語をやらなきゃだめだ」って言われてました（笑）

夜間個別指導では、文法とか長文をやってくれて、それがすごい役に立った。あとは演習の時間として淡々と。物理の夜間は一番最初に問題を考えることから始まって。前の週に図だけ渡されて、どんな設定や問題が考えられるか考えてくる。それは図だけみてパッと問題が浮かぶように意識的なトレーニングかな？あと夜間個別指導でも数学の小問を解くスピードを同じクラスの中で競ってかなり盛り上がりました。M1は授業で難しいことをやってたので、夜間でも簡単という小問ばっかといってくるような問題をだしてた。難しいのは授業、やさしいのは夜間や宿題で薄先生が配ってた。それで自然といろんな問題ができるようになってた。数学はM1全員で。お気に入りの先生は数学は薄先生に高3からずっとならってたから、やりやすいかなって思ったけど、みんな好きだった。物理も。化学は節田先生に変な質問しまくったし（笑）それに答えてくれたし。英語は朝岡先生と栗原先生の2人。

マンツーマンで遅れていた化学をカバー

マンツーマンは物理は夏だけ。学期中は化学と英語をやってました。化学は高3の冬からマンツーマンで米澤先生とやり始めて、浪人の夏までやって、やっと一通り完成したかんじ。米澤先生のマンツーマンは楽しかったです。米澤先生のスタイルが合ってました。高3の時に有機を一気にやって、すごく伸びて、直前に無機を詰め込んでぎりぎりに入試に臨んだという感じ。学校の先生がよかったんで、それだけでいけるかと思っただけですけど、全然ダメで。自分は性格的に自分でいけんじゃねーかって思っちゃうところがあって（笑）学

校で終わらないって、ギリギリになるって言われて塾で補強的にやろうかなって思った。それで米澤先生に習ったら、すごく良くて。現役の時は京大の理学部を受けたのでその対策。それで実力になりました。入塾の時は医学部って決めてなかったんですね。医学部1本でって思ったは、浪人になってから。こんだけお金払ってもらって、医学部以外いくのも…っておもって理学部受けるのやめました。東大理Ⅲに記念受験で出願したので、点数開示したら、理Ⅰなら受かった。それで、まあまあだなって。リスニングとか全然対策してなかったから、リスニングだけ記号なので、3秒で終わらせて（笑）時にカリカリ進めて、「以外に響くなあ」と思って。まあ、俺だしって。英語はリスニング中書きまくって、隣の邪魔したかもしれない（笑）それで、理Ⅰなら受かる点数だった。ただ、理Ⅲは別格だった（笑）

授業外ではクラスメイトと切磋琢磨

皆で授業以外は例えば井上卓さん（日本大学医学部1年）とかと過去問やってました。最初は2学期に薄先生が簡単どころ、東医とか北里とかコピーしてみんなで競い合うみたいなことをクラスでやってたんですね。それに便乗して化学とかもやろうかって。授業外でそれはやってて。テキストは慈恵とか日医とか難しい問題を中心的に取り扱ってたので、簡単な問題、小問とかの多いところを授業外でやってました。結構負けてましたね（笑）皆、ダメなときはダメで、いい時はいいんで、誰がいつも勝とかはなかったですね。その落差が大きいのが俺で（笑）安定の不安定感ってあだ名が（笑）解けなくはないけど、難しいけど、テンプレがあるから皆解けちゃうみたいな若干問題が苦手だったかもしれませんが。二次曲線とかの性質とか覚えてなかったから（笑）1から導き出さなくちゃいけないものとか、暗記してたらパツとできるものとか、暗記してなかったから、時間は掛かってたかな。暗記をもっとちゃんとやんなくちゃいけなかったんですけど、考えれば分かるじゃんってのがなかなか覚えられなくて。物理って1つ覚えれば後はガツてできるんですよ。だから、考えれば分かるじゃんってのは覚えられない。パンってこれ覚えろってのが覚えられなくて、英語も苦手だったんですね。でも医学部は時間の勝負があるんで、覚えなきゃいけなかったんですけど。

Monthly Test は自分の順位にこだわった

Monthly Test の貼り出しがあると、自分がどこにいるかは気になりました。物理は上位3人にははいついたいし、数学も。化学もそうだし。でも、化学はあんまり（笑）ここの人化学できるから（笑）橋本さんとか極まってたから。化学はどちらかという苦手な範囲、知識的なところを問ってくる問題だと苦手。ランキングには載ってたけれど1ケタ代にはなかなか入れなかった。英語は今日ものってないな…みたいな。初めて乗った時はすごい嬉しかった（笑）初めて載った時、

68点で、あれ？数学の点数か？って焦った（笑）初めて載ったときはすげーうれしくて、その後一回消えて、また載ってを繰り返してした。

英語は1年で24も偏差値が上がった！

英語は最終的に河合の模試で66までなった。高3の時は42とか（笑）。24上がった。そこは伸びたなって。その66はホントだったのかなって（笑）文章が文脈的に楽しい文章だったんで。でも、1学期とかの下積みがあったからだ。それまでは、皆がこれ分かんなかったよねって言うてる問題も「そんな内容だったんだ…」ってかんじだったから（笑）苦手とはいえ、周りの最低ラインにはのったかなって。物理は浪人で点数が安定した。現役の時は、できるのとできないのと波があったんですけど。一度8月のMonthly Test の物理でランキング上位3人に入れない時があって。9月に問題を難しくするって宣告されてたんですけど、8月で少し難しくなったときに、ガタついちゃって。点数が取れなくて、5位くらいになっちゃって。それで意識が変わったのがあります。その後はずっと1位を維持しました。わかんないんですけど、最初7月の頭くらいに難しいのばっかりやってて、その後簡単なのばっかりやってたから、難しいのがきたときにうわってなっちゃったんですよ。でも、その後は難しい問題がきても焦んなくなったし、いい点数とれるようになった。

面接は石井先生の言うことは正しいと実感。

受験期は面接が苦手だったので、大変でした。モチベーション管理とかは大丈夫でした。最後の方はなれたからちゃんと話せたけれど、最初の方は石井先生と対策したことが言えなかったりして。小論の時に落ち込んでましたね。何しに來たんだみたいな。順天の面接でも余計なこと言っちゃって。実際、石井先生に研究に興味があるって言うなと言われていて。でも、「そんなことないんじゃないかな？」って思う気持ちがあって、ポロって言っちゃったんですね。そうしたら、面接官の態度がコロっと変わって。それで日医の時に研究に興味があるって願書に書いていて、どうやって言おうかなって考えはじめて。先生と考えると、研究に興味がないと日々の診察などで未知の病気に出会った際に対処できないって言ったら、「そうだねえ」みたいに言ってもらえて。日医は過去の失敗を生かして、成功しました。順天の時はその時に完全にやらかしたなって分かった。それがあったから、日医に入れたから。それで無難な解答してたから補欠で、回ってこなくて、日医で失敗して落ちるってこともあったかもしれないんで、まあ失敗してよかったです。日医受かるための糧だったんで。石井先生の言うことは正しかったです。身をもって経験しました（笑）

卒業生が語る

合格への
軌跡 2014年

WAY TO SUCCESS

愛知医科大

2次正規合格

毎日の勉強が苦ではなかったですね。
マンツーマンも楽しかったです。
授業が楽しみでしたね。
自習時間はきつかったですね。

愛知医科大進学 荒巻佳祐君(上田高校卒)

ツケをためこまないように頑張っていきます。

部活は楽しくって、勉強はテスト前しか勉強しないです(笑)。俺とこは、イケイケっていうか強い部活こそデカくて、知り合いも多くて。デカイ部活とデカイ部活がつながって。兼部はしちゃいけない感じです。あと、テストが二期制で、はい、二期制です。単位制なので、唯一の、落としても進級は出来ます。でも、2年で全部取らないといけないんです、1年の分も。進級は2、4が関門って言われています。なぜかという、1年も3年も進級には単位の3分の2を取ればいいんです。だから、落としても進級は出来るんですけど、2年と4年で全部回収しないと3年と5年に上がれないんです。だから、ツケをためこまないように頑張っていきます(笑)。

数学が一番きつかった。

浪人時代、とくに苦労したのが暗記ですね。化学なんかの。覚えることに関して。覚えろ覚えろ言われてたんですけど、全然覚えられなくて、それで俺医学部あんまり向いてないと思ったんですけど(笑)。だから、理論ばかり。一番難しい問題でも解けるように、ほんと一番難しいところまでやっただけです、理論は。無機とかでも一番難しいところまでやって、数学使うところまで全部やって、考える力だけを伸ばしてもらいました。先生にはいろいろ質問も行きましたが、でも、質問はあんまりしないようにして、予習をちゃんとやりました。予習はめっちゃやった…。数学はテキストだけでした。数学が一番きつかったですね。先生に繰り返しやらされた時にバツつけて、バツが3つになったら付箋を貼ってました。暗記科目と考える科目、考える単元では変えてたかもしれないです。例えば、英語の文法は、一回丸だったらやらないんじゃないかと、たまたまできたかもしれないから、二回丸つくまでやれって言われました。バツはもちろんやるし。先生に苦しめって言われました。苦しんだ分、ハッと気づくことができる時があるから頑張れと。予習で苦しんだ分、知識が定着するからと言われました。また、カレンダーの空きコマに何をやるべきか記入して、予習復習を教科のばらつきなくやってました。代官山で予習が間に合わなかった時は、自宅の近所のサイゼリアで2時間くらいまで勉強して、帰ってました。そして、朝起きられませんでした。朝は、復習に費やしてましたね、予習よりは飛ばしてもいいかなと思って。

マンスリー後は嬉しかったですね、それよりも授業が楽しかったです。毎日の勉強が苦ではなかったですね。

毎月のマンスリーテストは、俺は目標を持って、上に上がりたいって思って。最初はM(選抜)に上がりたいって気持ちだけで受けてました。そっから、M2に上がって、目標を失って、ちょっとあんまり…ってなっちゃったんです。で、そこからまた新しく、総合で3位以内とか、全教科で一番上を狙えるくらいになりたいなっ

て思ったんです。どの教科もまんべんなく力の差が無いように勉強してたんで、どの教科でもいいから一回くらいトップ3に入れるくらいの実力をつけたかったんですけど、化学だけは最後まで無理だったんですけど…。

振り返ると、俺って、先生にやれって言われた事しかやってなくて。問題と解答が別になってないと嫌な人なんですよ。あと、過去問をやっていい問題だと思ったものはノートに貼ってました。物理も先生にはプリントを作ってもらったんですけど、イラストも入っていて、寺門君(寺門正雄君:日本医科大進学)とイラストが違って、荒巻専用のプリントを作ってもらえました。また、石井先生のテキストは読みこみましたね。単語帳すらやってなくて、先生のテキストに載ってる単語しかやらなかったです。それでも語彙力は現役時と比べて相当つきましたね。あとおすすめなのが、化学図録みたいところに水溶液の色みたいなのがあったんですが、それをカラーコピーして自習室に貼って、ポーっとしている時も目に入るようにして記憶に残しておくような努力をしていました。書けと言われると書けませんが、なんとなく記憶に残っているものを思い出していました。覚えようとしても無理なので、視覚でなんとか覚えました。マンスリー後は嬉しかったですね、それよりも授業が楽しかったです。毎日の勉強が苦ではなかったですね。マンツーマンも楽しかったです。授業が楽しみでしたね。自習時間はきつかったですね。やり込んだノートを先生が見て、やってるじゃんって褒めてくれたりしてうれしかったですね。自習室はきれいでしたね。自習室だけが集中できる環境でした。

